

秋田大学 概要

平成28年度

2016

A K I T A U N I V E R S I T Y

秋田大学 概要

平成28年度

目 次

- 01 学長あいさつ
- 02 秋田大学の目的・基本理念、第3期中期目標・中期計画

教育・研究・社会貢献・国際交流

- 05 卓越した教育と研究
- 06 社会貢献
- 08 国際交流

学部・大学院

- 11 国際資源学部
- 12 教育文化学部
- 13 医学部
- 14 理工学部
- 15 [大学院]国際資源学研究科／教育学研究科
医学系研究科／理工学研究科

大 学 施 設

- 17 附属図書館
- 18 医学部附属病院
- 20 国際資源学研究科附属鉱業博物館
- 21 附属学校園及び教育研究施設等
- 22 学内共同教育研究施設
- 23 センター／技術組織
- 24 福利厚生施設等／体育施設
- 25 東京サテライト／
横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校
- 26 インフォメーションセンター

27 平成28年度主な課外行事

資 料 編

- 30 沿革
- 33 歴代学長
- 34 運営組織
- 35 教育研究組織
- 36 事務組織
- 37 役職員
- 38 学生の定員・現員
- 39 入学志願者・入学状況／出身高校所在地別在学状況
- 40 卒業者・修了者数／学位授与数
- 41 卒業者等就職状況／平成27年学生表彰等受賞者
- 42 平成27年度学生表彰等受賞者
- 44 外国人留学生数／外国人研究員等
- 45 国際交流協定校
- 46 公開講座(平成27年度)
- 47 国内機関との連携・協力協定
- 48 役員数／教職員数
- 49 平成28年度予算／外部資金受入状況／
平成28年度科学研究費助成事業採択状況
- 50 土地・建物
- 51 各連絡先・所在地一覧
- 52 手形地区施設配置図
- 53 本道地区施設配置図／保戸野地区施設配置図
- 54 アクセス



学長あいさつ

Message from the President

私たちの秋田大学は、平成26年度の大幅な組織改革によって、国際資源学部、教育文化学部、医学部、理工学部の4学部体制となって新たなスタートを切りました。本年度からは、大学院を国際資源学研究科、教育学研究科、医学系研究科、理工学研究科の4研究科体制にし、総合的な教育研究体制も整いました。これにより、社会から求められている大学の使命である、最先端的教育研究を強く意識した体制の地盤がより強固なものになりました。

我が大学はこれまで(1)世界・地域を見据えたリーダーを育む(2)世界・地域を視野に未来を創造する(3)地域と共生し豊かな社会を創る(4)地域に根ざし世界を目指す、というこのビジョンに沿って、過去2年間歩んでまいりましたが、その基礎となるものは世界と地域に貢献する最先端の研究およびそのような研究が可能な人材の育成であります。一方、文部科学省は、運営費交付金改革において、国立大学法人を、(1)世界最高の教育研究拠点を目指す大学群、(2)全国的教育研究拠点を目指す大学群、(3)地域活性化の中核的拠点を目指す大学群の3群にわけ、それぞれの目的に沿ってその成果を評価するという方針を打ち出しております。秋田大学は(3)地域活性化の中核的拠点を目指す大学群を選択しており、これまで以上に地域貢献に資する最先端的教育研究が求められています。

秋田大学教育研究体制が整備された今、このような目的を達成するために、まず第一にやらなければならないことは、我々教職員の意識改革であります。教職員すべてが、「最先端の研究を行う中で地域貢献を進めていくためには何をなすべきか」という意識を持ち、教育研究活動を進めていくことだと思います。

本年度から、地方創生センターを発足させました。これは、秋田県の地域活性化へのさらなる貢献を目指して設置したもので、このセンターの活動が地域貢献度を左右するといっても過言ではありません。地域協働部門においては、これまでCOCプロジェクトや地域創生課が担ってきた地域への貢献事業に加え、COC+事業の採択により、より地域貢献に尽力できる、秋田大学の評価を高めていける大きな事業と考えられます。また、地域産業部門には、秋田県の重要政策にリンクした研究事業を展開することにより、県内産業の育成、大学生の県内就職率のアップに大きく貢献できる可能性を秘めたものとして大きく期待されています。

そのためには、どのような意識改革が必要かですが、二つの重要なポイントがあると思います。第一に、地方創生センターの中の地域協働部門における教育文化学部地域文化学科の関与の程度です。地域文化学科の教員や学生が、秋田を強く認識する中での地域文化の学問は、地域貢献に大きく貢献するものと信じて疑いません。第二に、理工学部の活躍です。これまで、各教員が自分の教育研究領域において最先端的教育研究を心掛けてきたことはこれまでの業績から容易に想像できます。同時にこれからは、この最先端の研究を地域への貢献という観点から見つめなおし、研究の軌道を広げ、修正していく柔軟性も必要になってくると考えております。

各学部がこれまでに築いてきた業績を糧に、より地域にふさわしい「地(知)の拠点」としての大学形成に邁進すれば、おのずから地域貢献の核としての秋田大学の地歩を築けるものと確信する次第です。第3期中期目標・中期計画の完璧なる実現に向けて頑張りましょう。

国立大学法人秋田大学長 山本 文雄

基 本 理 念

1. 国際的な水準の教育・研究を遂行します。
2. 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
3. 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

（平成28年4月1日～平成34年3月31日）

第3期中期目標・中期計画

Mid-term Objectives and Plan

国立大学法人秋田大学の中期目標 （前文）大学の基本的な目標

秋田大学は、知の創生を通じて地域と共に発展し、地域と共に歩むという存立の理念を掲げ、豊かな地域資源を有する北東北の基幹的な大学として、その使命である教育と研究を推進する。

この見地から本学は、独創的な成果を世界に発信しつつ、国内外の意欲的な若者を受け入れ、優れた人材を育成するため、地域や世界の諸機関との連携による柔軟な教育研究体制の構築を推進する。

全地球的な視野を持ちつつ、諸課題に正面から向き合い、地に足をつけて行動できる規範意識を内在させた社会人を育成するためには、充実した教養と専門、さらには分野融合的な教育が不可欠である。そこで、本学の国際資源、教育文化、医、理

工の四学部は、固有のミッションに基づく専門領域と諸学諸組織との融合を通じて、地域社会の持続的な発展を担う専門的職業人と国際社会で活躍する高度専門職業人及び学術研究者を育成する。

こうした基本認識に立って、本学は学生と教職員との全学的な知の交わりが躍動する、学修者中心の大学たることを目指す。

以上のような理念に基づき、活動の基本的な目標を以下に定める。

1. 教育においては、質の国際通用性を高め、地域と世界の諸課題の解決に取り組む人材を育成する。



秋田大学中央図書館
Akita University Library

中 期 目 標

2. 研究においては、地域の特性を活かした研究とグローバルな課題に対応する研究に取り組むことにより、イノベーションの創出を推進し、その成果を継続的に地域と世界に発信する。
3. 社会連携においては、教育研究成果を地域社会に還元し、地域と協働した地域振興策の取組を推進するとともに、地域医療の中核的役割を担う。
4. 国際化においては、資源産出国を中心とした諸外国の留学生・研究者との学術交流を推進するとともに、学生や教職員の海外留学・派遣を促進する。
5. 大学経営においては、学長主導の下、学生及び教職員一人ひとりの活力を相乗的に高めた組織文化を浸透させ、透明性を確保した健全で効率的な大学経営を目指す。

- I 大学の教育研究等の質の向上
 - II 業務運営の改善及び効率化
 - III 財務内容の改善
 - IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供
 - V その他業務運営
- に関する目標を達成するためにとるべき措置として、72項目の中期計画を設定しています。

本学の中期目標・中期計画の全文は
〈ホームページ〉 http://www.akita-u.ac.jp/honbu/info/in_target.html からご覧いただけます。

教 育 研 究

卓越した教育と研究

- 博士課程教育リーディングプログラム
レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム
- 秋田大学 地(知)の拠点整備事業
一人ひとりを大切に、自立した高齢社会に向けた地域づくり
- 「地(知)の拠点大学」による地方創生推進(COC+)事業
～若者の地元定着の促進と若者の育成～
- がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
次世代がん治療推進専門家養成プラン
- 国際科学技術共同研究推進事業
地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)

社 会 貢 献

国 際 交 流

卓越した教育と研究

博士課程教育リーディングプログラム レアメタル等資源ニューフロンティア リーダー養成プログラム

(実施期間:平成24年度採択～平成30年度)

大学院国際資源学研究科に「資源ニューフロンティア特別教育コース」を開設し、従来の資源学に留まらずリサイクルや資源経済、さらに環境保全や資源リテラシー、異文化理解、国際関係などを含めた知識、能力を養成し、21世紀の国際資源開発に関わる諸問題に俯瞰力をもって挑める人材「資源ニューフロンティアリーダー」の育成を目指します。



男鹿半島での地質調査の様子

秋田大学 地(知)の拠点整備事業(COC事業) ～一人ひとりを大切に、 自立した高齢社会に向けた地域づくり～

(実施期間:平成25年度採択～平成29年度)

平成25年度の文部科学省の新規重点補助事業で、事業参画自治体の秋田県及び横手市、北秋田市、湯上市や地域住民と協働作業を進め、超高齢社会においても希望を持てる「秋田発の地域生活モデル」の構築、そして地域から愛され地域から必要とされる大学の形成を進めています。



統合看護演習／統合看護実習の
成果発表会(横手市)

「地(知)の拠点大学」による 地方創生推進(COC+)事業 ～若者の地元定着と若者の育成～

(実施期間:平成27年度採択～平成31年度)

平成27年度の文部科学省の新規重点補助事業で、地域活性化の拠点となる大学の形成に取り組んできた「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」を発展させ、地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するなど、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を図る

うとするものです。県や商工団体など事業協働機関とともに、5年間で「学生の地元就職率10%アップ」を目指します。



COC+キックオフシンポジウムで「大学は知恵を」と訴える
石破茂地方創生担当大臣(秋田市・H28・2・6)

「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」 次世代がん治療推進専門家養成プラン

(実施期間:平成24年度採択～平成28年度)

秋田大学が東京医科歯科大学などの在京4大学及び弘前大学と連携して行うがん対策プランです。①各種低侵襲がん治療方法の習得、②総合臨床腫瘍医の養成、③がん診療の地域医療における普及・推進、④がん臨床研究の推進とその成果の実践応用、⑤がん治療に必要な機器の開発に従事できる人材の養成、⑥がん化学療法への質向上に貢献できるがん専門薬剤師の養成などを目標とします。



あきた地域がん医療説明会の様子

国際科学技術共同研究推進事業 地球規模課題対応国際科学 技術協力プログラム(SATREPS)

持続可能な資源開発実現のための空間環境解析と高度金属回収の融合システム研究

(実施期間:平成26年度採択～平成31年度)

環境汚染に悩まされるセルビア共和国の銅資源開発地域において先進リモートセンシングデータと地表データを組み合わせる3次元的な環境評価・



セルビア共和国での調査の様子

解析と高度な金属回収技術を融合し、持続的な資源開発に不可欠な開発と環境との両立を目指した広域環境評価修復システムの研究開発を行います。

社会貢献

秋田大学は、平成16年度の国立大学法人化を契機に、教育・研究・社会貢献を大学運営の重点事項として掲げ、公共的な知の拠点として大学開放事業を推進しています。

本学の社会貢献活動の根底には、学生のみならず生涯学習も教育の一環であり、社会の人々にも積極的に教育資源を提供していこうという思いが込められています。そのコンセプトを基に、様々な活動を展開しています。また、小中学生・高校生やその保護者を対象とした企画も実施しています。

地域連携・社会貢献事業

■公開講座

生涯学習の一環として、市民・県民の皆様どなたにも本学の良質な教育資源を提供するために、毎年多種多様なテーマで公開講座を開講しています。

※平成28年度開講の講座は本学公式ホームページをご覧ください。



■子ども見学デー

毎年夏休みに、小学生とその保護者の方を対象に「子ども見学デー」を実施しています。大学内の見学や研究室での実験、天体望遠鏡での観察など、様々な体験を通じて、大学に対する関心を高めてもらうことが目的です。



■自治体との連携

本学が持つ教育・研究資源の提供と、地域活性化の促進を目的に、秋田県内自治体と連携協定を締結しています。「地域に根ざした大学」を目指し、講演会や地域交流朝市、子ども向け科学教室の開催や、学生の地域交流等による地域貢献を行っています。

平成28年5月1日現在、秋田県を含む15の自治体と連携協定を締結しています。



■小・中学生等の大学見学受け入れ

小・中学校の総合学習や職場体験学習の一環として行われる大学見学等を受け入れています。職員が学内の施設を案内したり質問に答えたりしながら、本学を紹介します。

■メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト

秋田大学社会貢献事業の全学的な取り組みとして、大学の持つ学術的知見を分かりやすく市民へ提供するため、学部間連携により各学部から講師を招き、医学系研究科長がサイエンスカフェ・マスターとなって、幅広い視点から医学・健康に関する話題を提供しています。

地域防災事業

1. 秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査・研究

- ① 秋田県内の地震・防災について基礎的研究を行います。
- ② 秋田県沿岸部で過去に発生した津波の影響範囲や履歴を調査し、津波被害の軽減について研究します。
- ③ 秋田県内に将来甚大な被害をもたらす可能性がある地震・津波について調査・研究します。



2. 防災について地域で活動できる人材の育成

地震災害が発生した場合に、地域住民自らが減災活動を行えるように、自治体・町内会、教育機関等で防災教育を実施します。



3. 県および市町村への防災施策に関する指導・助言

秋田県の地震被害の想定並びに地震防災対策を推進するために、県内自治体が考える防災・減災対策について、地域の特性を考慮しながら指導・助言を行います。

■資源開発・環境リサイクル研究開発事業

天然の鉱物資源や石油、天然ガス等のエネルギー資源に関する開発と生産・利用にはじまり、資源精製や素材生産、レアメタル等のリサイクルから環境修復技術に至る高度で独創的な研究を推進し、国際的な視野に立った先進的教育研究拠点を構築します。



■新素材・機能性材料開発研究事業

新素材・機能性材料開発事業では秋田大学における基礎研究成果を基盤とした新素材や先端材料の開発に関連した研究を推進し、地域の高等研究機関としての機能を果たすことで、これら研究をととして秋田県内企業、大学、公設試の連携による新産業や雇用の創出を目指します。

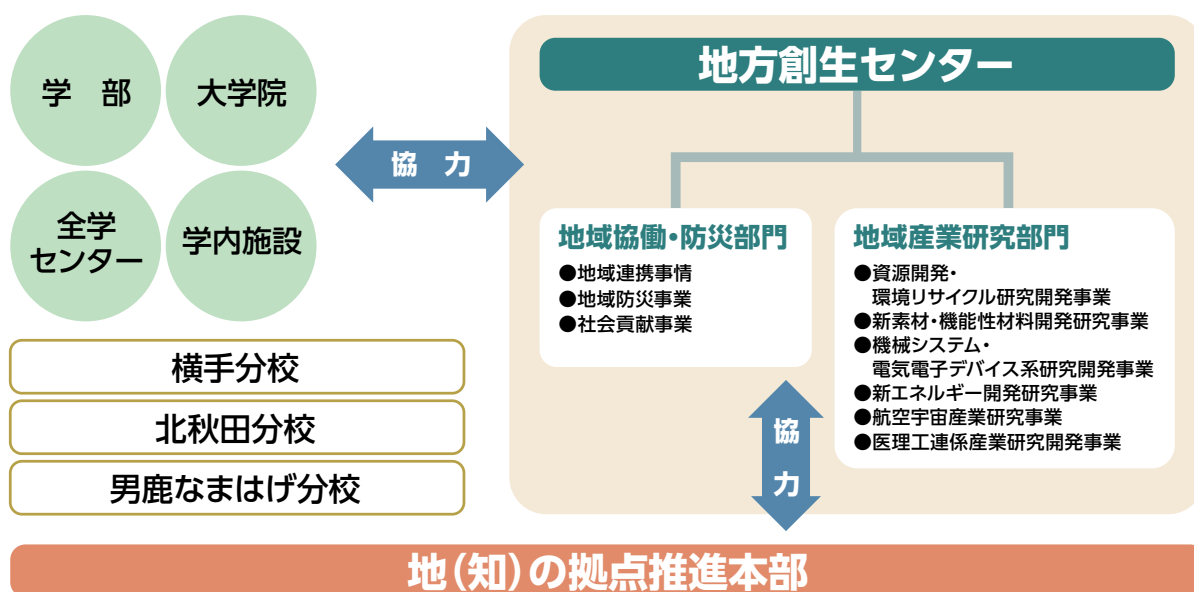


地方創生センター

地域と連携し、地域の活性化と発展等に寄与することを目指し「地域協働、地域防災」の事業を担っていた「地域創生センター」と、新産業創出のための独創的な研究開発推進や若手研究者の育成、産学官連携活動の促進など「新産業創出、人材育成」事業の役割を担っていた「ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー」、「ベンチャーインキュベーションセンター」等の既存の施設を再編統合し、平成28年4月

に新たに「地域協働・防災部門」及び「地域産業研究部門」の2部門からなる「地方創生センター」を設置しました。

地方創生に取り組む地(知)の拠点大学として、地域との協働による地域振興策の取組及び地域防災等の研究・支援並びに地域産業の成長に資する研究を推進し、地域を担う人材育成の推進と地域の産業振興、活性化に貢献します。



国際交流

世界に広がる 学術ネットワークと海外拠点

今まで大学間協定は29か国・地域57大学、部局間協定は9か国・地域16学部等となりました。今後も協定校との学術交流、学生交流を推進し、積極的な国際交流をすすめていきます。

海外拠点の設置にも力を入れています。2012年、初の海外事務所としてモンゴル科学技術大学内に、「秋田大学モンゴル事務所」を開設しました。本学研究者の現地における調査・研究拠点として利用しています。

2013年に、二つ目の海外拠点として、バンコク(タイ王国)のチュラロンコン大学内に、秋田大学・チュラロンコン大学共同研究室を置きました。チュラロンコン大学と共同研究を行っている秋田大学のチームが使用し、両大学にとっての研究及び現地調査の拠点となっています。

2014年に北都銀行バンコク連絡事務所内に開設した「秋田大学バンコク事務所」は、東南アジア地域における事務的拠点として、現地関係機関との連絡調整及び留学生獲得のための広報活動を行っています。本事務所は、「秋田大学・北都銀行における新戦略連携協定」の締結に合わせて設置されました。2015年に、秋田県庁はタイ進出秋田県関連企業ネットワークを組織し、バンコク都内で設立総会を開催しました。本学では、この機会にあわせてスラナリー工科大学・秋田大学・北都銀行のMOU締結式を行っています。

インドネシアにも二つの拠点を作りました。2015年に、トリサクティ大学内に開設した「国際資源学部・トリサクティ大学共同研究室」は、顕微鏡や岩石カッターなどの研究機器を備

えた研究室です。国営石油会社プルタミナから試料の提供を受けるなど、通常は権益の関係から入手が難しい石油資源データを集め、共同で石油探査の技術力を高めています。翌2016年には、ハサヌディン大学内に、国際資源学部とハサヌディン大学工学部との共同研究室を開設しました。室内には、秋田大学の偏光顕微鏡、顕微鏡用デジタルカメラ、研磨機などを設置しています。

インドネシアに研究拠点を置くことで、アジアの地下資源をテーマにした共同研究、共同による地域の探査・開発への取り組みがさらに強化されることが期待されます。



ハサヌディン大学共同研究室(平成28年2月)

資源開発の研究拠点から 留学生広報まで

全学組織として平成21年に設置された国際資源学教育研究センターは、国際資源学研究科を母体とし、資源保有国への技術支援や、資源学シンポジウムを開催し、資源開発における研究拠点を目指しています。

中でも、ショートステイプログラム(SS)は、交流の活発な協定校より、学部生を本学で4週間受け入れて、座学・実験の他、県内資源関連施設の視察などを行っています。

最近、プログラムを終えて帰国した学生が、正規留学生や交換留学生として、再び本学に戻ってくるケースも増えてきており、本学の海外広報としての役割も期待されています。

秋田大学は世界に開かれた大学として国際交流の拡大を図っています。そのために、学生及び教職員の海外留学・



派遣の促進と外国人留学生の受け入れの増加、受け入れ環境の整備等に努めています。平成20年2月には国際交流センターを設立し、戦略的な国際交流を進めるための体制が整いました。

外国人留学生に対する教育・生活支援の充実

留学生数の増加に伴い、教育支援体制の整備も積極的に行っています。

平成21年度には私費外国人留学生のための、本学独自の奨学金(秋田大学私費外国人留学生奨学金)を創設しました。これにより、協定校等からの成績優秀な留学希望者に対し、奨学金を支給できるようになりました。

秋田の文化に対する理解を深めるため、農家民泊やもちつき、横手かまくらやスキー合宿など、地域に根ざしたイベントを企画し実施しています。また、「チューター制度」を採用することにより、日本人学生が留学生の日本語学習や生活のサポートを行っています。

平成22年4月には多様な言語を自律的に学べるスペースとして「多文化交流ラウンジ」が設置され、海外留学説明会や報告会を定期的に開催しています。

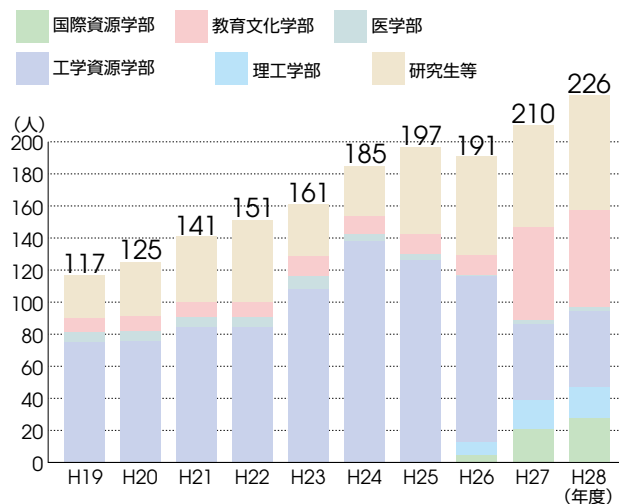


田植えを体験する留学生



多文化交流ラウンジ

〈留学生数の推移〉



国際的視野を持った人材の育成

若手教育系職員を海外の大学等に派遣し、国際的な視野を持った人材の育成を目指すため、「秋田大学研究者海外派遣事業」を実施しています。制度化した平成20年度から今までに、毎年約3名程度、計25名の研究者がこの制度を利用し、海外の大学で研究を行いました。

また、学生に対しては、協定校などの海外の大学へ留学する際の経済的支援のため、「秋田大学学生海外派遣支援事業」を実施しています。これは往路に要する国際線の航空運賃の一部(アジア圏上限4万、それ以外上限10万)を支給するもので、平成27年度は5名に対して支援を行いました。



海外留学説明会

学部

大

学

院

[学部]
国際資源学部
Faculty of International Resource Sciences

教育文化学部
Faculty of Education and Human Studies

医学部
Faculty of Medicine

理工学部
Faculty of Engineering Science

[大学院]
国際資源学研究科
Graduate School of International Resource Sciences

教育学研究科
Graduate School of Education

医学系研究科
Graduate School of Medicine

理工学研究科
Graduate School of Engineering Science

国際資源学部

国際資源学部は、資源生成メカニズムの解明から資源探査、開発・生産までを対象とした理工系分野と、資源国の政策・文化や資源経済などを対象とした人文社会系分野からなり、資源を網羅的に学ぶことができる我が国唯一の「資源学」を対象とした学部です。世界の第一線で活躍する教授陣を結集し、世界をフィールドに、資源の最先端を学びます。国内外の大学や企業、研究機関との強力な連携体制のもと、国際舞台で活躍できる資源人材を養成します。

学部の構成(1学科)

【国際資源学科】

地球規模の資源問題解決に向けて、国際的な視野をもち、実践的能力を育みます。

●資源政策コース

資源を取り巻く国際情勢や政策を理解し、関連する国際法や資源経済、資源国との契約や交渉術、その背景となる資源国の文化などについて学びます。

●資源地球科学コース

世界を対象とした資源分野の予測と新たな地球資源の可能性を探究するため、地質学、鉱床学などの最先端地球科学を基礎とした地球史をダイナミックに考察します。

●資源開発環境コース

資源・エネルギーの探査・開発、生産手法から、製錬・リサイクル技術や環境保全に至るまで、資源開発と地球環境との関わりを包括的に学びます。



カリキュラムの特色

コース	1年次	2年次	3年次	4年次
資源政策コース	〈教養教育科目〉 ○初年次ゼミ ○主題別科目 現代社会 人間と文化 科学の探求 生活と保健 地域社会 技能の活用 ○国際言語科目 ○スポーツ文化科目 〈基礎教育科目〉 国際資源外交史 異文化コミュニケーション 資源開発と人権問題 基礎資源経済学 日本の国際協力 基礎地質学 基礎物理学 基礎化学 基礎物理学実験 基礎化学実験 基礎統計学	〈専門科目〉 ●資源政策論 ●国際法学 ●交渉学 ●石油資源論 ●エネルギー地政学 ●資源地域研究 ●資源動向論 ●地質図学 等 ●地史学 ●石油地質学 ●鉱物学 ●金属鉱床学 ●岩石学 ●国際法学 ●材料力学 ●地球物理学 ●資源処理工学 等 ●流体力学 ●物理化学 ●石油工学 ●工業製図 ●粉体・界面工学 ●分析化学 ●地球化学 ●金属鉱床学 等	●国際情勢分析論 ●鉱業法 ●資源契約論 ●資源環境経済学 ●人的資源管理論 ●資源開発生産論 ●資源循環学 ●リサイクルシステム学 等 ●構造地質学 ●古環境解析学 ●堆積学 ●X線結晶学 ●リモートセンシング地質学 ●防災地質学 ●物理探査学 ●物理探査学 ●資源探査学 ●岩盤工学 ●リサイクル・廃水処理工学 ●資源開発生産論 ●素材開発工学 ●製錬プロセス工学 ●資源環境経済学 等	●資源プロジェクトマネジメント ●研究プロポーザル 等 ●応用金属鉱床学 ●応用鉱物学 ●研究プロポーザル 等 ●資源開発環境 ●文献購読 ●研究プロポーザル 等

専門科目は全て英語で授業

世界で活躍するために、英語力は必須です。国際資源学部では、1・2年次に「I-EAP」という特別なカリキュラムで集中的に英語を学びます。また、ディスカッション、ディベート、プレゼンテーションなどによって、実際に英語で議論ができるようになることを目標に学習を進めます。こうした実践的な英語学習を経て、専門科目の講義は全て英語で行います。語学力の面でも、国際的な最前線で戦える力を身に付けることができるカリキュラムを用意しています。

文理融合カリキュラム

海外で資源の開発を行う上で、その国の政治・経済状況、文化や宗教観を知っておくことは、極めて重要な意味を持っています。また、資源を扱うには、文化だけでなく、その国特有の事情や関連する法律についても知らなくてはなりません。専門科目の一部はコースを横断して履修できるカリキュラムとなっており、文系理系の枠を超えて資源学を修める上で共通に求められる知識・技術を修得することができます。企業が海外での資源戦略を展開する上では、文系の人間と技術系の人間の両方が必要になり、資源開発において文理両方の視点には必須となります。

海外実習必修の教育制度

3年次の後半に、全学生が海外資源フィールドワークに参加します。国際資源学部を設立するにあたって、国内の大学や企業はもちろん、海外の大学や企業からもご協力をいただき、国際資源学部の学生全員が海外で1ヵ月程度のフィールドワークを体験できるネットワークを用意しています。候補地としては、ヨーロッパや北米、モンゴルやインドネシアなど、世界各地の鉱床などがあります。運営されている鉱床そのものを見たり、それに附属する研究施設を見学したりして、実際に稼働している資源開発の現場に入ること、これから自分の取り組む研究のテーマを体験します。

【学部共通科目】 ●国際関係論概論 ●地球科学概論 ●資源地域社会学概論 ●資源地質学概論 ●国際情勢特別講義 ●資源開発環境学概論 ○=必修科目

基礎 資源を学ぶ上で基礎となる知識を習得する。 発展 学部共通科目で学んだ資源の基礎知識を基盤として、各コースの専門に関連する分野を発展的に理解する。 実践 海外における実践的な学びにより、世界の資源フィールドで活躍するための広い視野を身に付ける。専門性を高め、卒業後研究で取り組むテーマを明確にする。

教育文化学部

教育文化学部は、教員養成を担う学校教育課程と地域協働の核となる人材養成を担う地域文化学科の1課程1学科からなります。学校教育課程は、教育現場との密接な連携を図りつつ、現場実践力のある教員を養成、全国最高水準の秋田県教育の継承と活性化を目指します。地域文化学科では、社会科学と人文科学などの多様な学問分野の学習と、地域と連携した授業やフィールドワークなどの実習を通じて、地域の諸課題について国際的な視点とローカルな視点から実践的に学ぶことができます。

■学部の構成(1課程1学科)

【学校教育課程】

地域の教育の活性化に貢献する教員を養成します。

●教育実践コース

小学校教員の養成を主とし、中学校教員養成も含めて、小中連携にも対応できるようになるとともに、子どもの心身の成長発達について理解を深め、全国トップクラスの学力を支える高度の実践力を持った教員を養成します。

●英語教育コース

小中高の連携による英語教育を実践できるとともに、秋田の次世代のグローバル人材を育てるために、英語力のみならず異文化間コミュニケーション能力を持った教員を養成します。

●理数教育コース

理科・数学の体系的な知識と指導法を身に付け、理科や数学のおもしろさを子どもに伝えることができ、実感を伴った理解へと学習を発展させることができる教員を養成します。



●特別支援教育コース

特別支援学校および小・中学校等で特別支援教育を担うとともに、インクルーシブな環境で、発達の特性や特別なニーズに対応した支援を実践できる教員を養成します。

●こども発達コース

幼稚園や保育所の教員・保育士の養成を主とし、小学校教員養成も含めて、幼保小連携に対応できるスキルを身につけるとともに、人間の生涯にわたる発達過程や、幼児教育・保育と学校教育の全過程を見通しながら省察できる教員を養成します。

【地域文化学科】

地域活性化に貢献する人材を養成します。

●地域社会コース

法学や経済学などを学ぶ公共政策領域、社会学や地理学などを学ぶ地域環境領域、心理学を学び認定心理士の資格を取得できる心理実践領域、地域食資源を活用した商品開発や住環境などを学ぶ生活科学領域、ICTを学ぶ情報コミュニケーション領域の5領域で構成され、専門的かつ多角的に地域社会について学べます。

●人間文化コース

日本を含むアジアと欧米の言語・文化について、文学・歴史学・哲学・芸術学・言語学などの人文科学的な視座から学ぶことができます。体系的な外国語教育プログラム(英・独・仏・露・中国・朝鮮語)や海外研修制度も活用しながら、国際社会の多様なあり方を幅広く理解した上で、その知見を地域文化の活性化につなげられる能力の修得を目指します。



医学部

医学部は、豊かな教養に支えられた人間性、学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探究・問題解決能力を養い、医学・健康科学に対する十分な理解のもとに、人々の健康と福祉に貢献できる国際的視野を備えた人材を育みます。卒業後は、臨床現場で医療人として活躍する道のほか、大学院に進学し研究者や教育者をはじめとする医学医療の高度な専門家を目指す道が開かれています。

■学部の構成(2学科)

【医学科】

医療に関する幅広い専門知識と高度な技術を身につけた人材を養成します。

【保健学科】

看護学・理学療法学・作業療法学の3専攻6講座を設けており、医療専門職(看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士)を養成します。

医学科	大学院所属の教員が教育を担当する。	
保健学科	専攻	教育担当組織
	看護学	●基礎看護学講座 ●臨床看護学講座 ●母子看護学講座
	理学療法学	●地域生活支援看護学講座 ●理学療法学講座
	作業療法学	●作業療法学講座



医学科

6年

保健学科

4年

入学

卒業

初年次ゼミ
教養基礎教育科目

初年次ゼミ
教養基礎教育科目

専門教育科目

専門科目
専門基礎科目

臨床実習

臨床実習
臨地実習

卒業試験

卒業研究

学位：学士(医学)

学位：学士(看護学・保健学)

●医師国家試験

●看護師国家試験
(保健師国家試験※選択)

●理学療法士国家試験

●作業療法士国家試験

理工学部

理工学部は、「理」に裏打ちされた専門能力と高い倫理性を持ち、学際分野にも目を向けられる、総合力で日本や地域に貢献できる人材の育成に力を注ぎます。1・2年次では理学に関する教育を徹底して行い、3・4年次ではその知識を専門という場で活用しながら身につけていきます。自ら課題を発見でき、未知の分野の課題に対しても幅広い視野から、柔軟に解決できる能力を修得させる学士課程教育を実施します。

■学部の構成(4学科)

【生命科学科】

ライフサイエンス分野のさまざまな課題に挑戦する研究者・技術者を育成します。

●生命科学コース

多様な生命現象を、生体を構成する分子レベル、個々の細胞や個体レベル、生物の集団レベルで解明することについて学びます。

【物質科学科】

先端機能材料や化学プロセスに携わる研究者・技術者を育成します。

●応用化学コース

無機材料、有機材料、エネルギーに関連した化学工学からバイオプロセスまで幅広い化学の専門分野を学びます。

●材料理工学コース

固体物理学、固体化学、金属材料学、セラミック材料学を中心として基礎科学から材料の工学的応用までの幅広い分野について学びます。



【数理・電気電子情報学科】

数学・物理から電気・電子、情報通信の各分野をリードする多彩な人材を育成します。

●数理科学コース

代数学、幾何学、解析学、離散数学、量子力学、電磁気学を中心として、数理科学とコンピュータサイエンスについて学びます。

●電気電子工学コース

電力工学、半導体デバイス工学、計測エレクトロニクス、電気機器学を中心として、電気・電子・情報・通信工学を支える基盤技術について学びます。

●人間情報工学コース

ヒューマンコンピュータインタラクション、福祉情報工学、画像解析学、情報通信とネットワークを中心として、コンピュータサイエンスを基礎とした高度な応用技術を学びます。

【システムデザイン工学科】

新しいものづくりができる実践的な技術者を育成します。

●機械工学コース

材料力学、流体力学、熱力学、機械力学、制御工学、ナノテクノロジー、医療工学、バイオメカニクス、ロボット工学を中心として、あらゆる産業の基盤をなす機械工学について学びます。

●創造生産工学コース

設計工学、創造製作学、電気電子回路、システム制御工学、ロケット工学、プロジェクト実践研究を中心として、工学分野について幅広く学びます。

●土木環境工学コース

構造設計学、建設材料学、地盤工学、水理学などを中心として、安全・安心・快適な地域環境を創造・保全する技術について学びます。

■通信教育講座

秋田大学理工学部には、国立大学法人唯一の「社会通信教育講座」があります。昭和23年の開講以来、伝統と歴史を背景に、約1,900名以上の修了生を社会に輩出しています。

科学技術に関する教養的な知識を得るための一般科学技術コースと、資源系、材料系、電気電子系の基礎及び専門を学べるコースが用意されています。

大学院

国際資源学研究科

国際資源学研究科は、資源循環型社会の実現のため資源地球科学分野および資源開発環境学分野に関する高度な知識と専門性に裏付けられた最先端の教育・研究を進め、地球科学から資源開発、環境保全に至る広範な知識を修得し、グローバルリーダーとして活躍できる人材の養成を目的としています。



博士前期課程
資源地球科学専攻 資源開発環境学専攻
博士後期課程
資源学専攻

博士課程リーディングプログラム レアメタル等資源ニューフロンティア特別教育コース (5年一貫博士課程[コース])
地球資源コース 資源開発素材コース

教育学研究科

教育学研究科は、理論と実践の往還を通じて学校現場の課題を解決し、実践知の継承と創造に取り組む意欲と高度な力量を有する初等中等教員の養成と、教員や学校を支援して地域の発展に貢献できる高度専門職業人の養成を目的としています。本研究科には、教職実践専攻(教職大学院)と心理教育実践専攻(修士課程)の2専攻があります。



教職大学院(専門職学位課程)	
教職実践専攻	学校マネジメントコース カリキュラム・授業開発コース 発達教育・特別支援教育コース
修士課程	
心理教育実践専攻	心理教育実践コース

医学系研究科

医学系研究科は、人類の健康・福祉の発展に寄与する医学・医療・生命科学の最先端研究を推進できる国際的視野を備えた優れた研究者・高度専門医療人を育成することを目的としています。



修士課程		
医科学専攻		
博士前期課程・博士後期課程		
保健学専攻	博士前期課程	看護学領域 リハビリテーション科学領域
	博士後期課程	女性・小児発達支援科学分野 生活機能・健康行動支援科学分野
博士課程		
医学専攻	病態制御医学系 腫瘍制御医学系 機能展開医学系 社会環境医学系 臨床教育協力部門	

理工学研究科

理工学研究科は、地域産業を担う高度な専門的技術者・研究者、地域に根ざしたグローバルな人材、国際的な視野をもって地域の産業を自ら生み出す挑戦者、これからの国際社会でのイノベーションを担う人材を養成するとともに、地域産業・地方行政と連携することによって地方創生を推進することを目的としています。



博士前期課程	
生命科学専攻	生命科学コース
物質科学専攻	応用化学コース 材料理工学コース
数理・電気電子情報学専攻	数理科学コース 電気電子工学コース 人間情報工学コース
システムデザイン工学専攻	機械工学コース 創造生産工学コース 土木環境工学コース
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	
博士後期課程	
総合理工学専攻	生命科学領域 物質科学領域 数理・電気電子情報学領域 システムデザイン工学領域

大 学 施 設

附属図書館

医学部附属病院

国際資源学研究科附属鉱業博物館

附属学校園及び教育研究施設等

- 附属幼稚園 ○附属小学校 ○附属中学校 ○附属特別支援学校
- 附属教育実践研究支援センター ○附属鉱業博物館
- 附属病院 ○附属病院シミュレーション教育センター
- 附属地域包括ケア・介護予防研修センター
- 附属理工学研究センター
- 附属ものづくり創造工学センター ○附属地域防災力研究センター

学内共同教育研究施設

- 生体情報研究センター ○情報統括センター
- バイオサイエンス教育・研究センター ○放射性同位元素センター ○環境安全センター
- 産学連携推進機構 ○国際資源学教育研究センター ○地方創生センター

センター

- 評価センター ○教育推進総合センター ○学生支援総合センター
- 教員免許状更新講習推進センター ○国際交流センター

技術組織

- 総合技術部

福利厚生施設等

- 保健管理センター
- 大学会館(クレール)〈手形キャンパス〉 ○本道会館(メディココ)〈本道キャンパス〉
- 学生寮 ○国際交流会館 ○留学生会館

体育施設

- 陸上競技場 ○野球場 ○球技場 ○ハンドボール場 ○大体育館 ○小体育館
- 柔剣道場(武道場) ○弓道場 ○テニスコート ○プール(25m) ○運動場

東京サテライト

横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校

インフォメーションセンター

附属図書館

University Library



中央図書館(正面玄関)

●附属図書館は学生・教職員の学習・教育・研究の支援をしています。学生のアクティブ・ラーニングを実現する新しい学びの場としてコモンズ・グループ学習室が整備されています。また、地域に開かれた図書館として、一般の方にも開放しており、閲覧・貸出サービスをご利用いただくことができます。

〈サービス内容〉

- 閲覧 ●貸出・予約
- 文献複写 ●レファレンス
- 蔵書検索 ●各種データベース
- PC・電子黒板等の機器利用



中央図書館閲覧フロア



特別コレクション。
18世紀に出版された
シェイクスピア全集等を
所蔵しています



中央図書館ラウンジ



中央図書館コモンズ



医学図書館コモンズ

●詳細についてのお問い合わせは

〈中央図書館・利用サービス担当〉

TEL.018-889-2279 E-mail: libriyo@jimu.akita-u.ac.jp

〈医学図書館〉

TEL.018-884-6052 E-mail: ibun@jimu.akita-u.ac.jp

〈附属図書館ホームページ〉

<http://www.lib.akita-u.ac.jp/>

医学部附属病院



医学部附属病院(正面)

医学部附属病院は、教育研究施設であるとともに、地域における医療機関の中核として各専門分野にわたる豊富な知識と最新の医療機器等による診療機能を駆使する医療機関であり、平成6年には特定機能病院として承認を受け、地域に対する指導的役割を担う病院として、今後なお一層地域社会への貢献を行います。

また、患者にとって安心できる医療環境の下で、良質で高度な医療を適切に提供することをとおして、優れた医療人の育成と医学研究の進歩のため積極的に役割を果たすとともに、地域医療・保健活動の中心としての役割を担い、さらに国際的にも貢献できるよう努めます。

〈病院案内図〉

第一病棟

第二病棟

平成28年5月1日現在

第一病棟		第二病棟	
8F	整形外科 神経内科	血液内科 腎臓内科 リウマチ科	
7F	眼科 呼吸器外科 乳腺・内分泌外科	呼吸器内科 耳鼻咽喉科	
6F	消化器外科 麻酔科 食道外科	消化器内科(肝・胆・膵) 消化器内科(胃腸・食道) 腫瘍内科	
5F	小児科 小児外科 新生児集中治療管理室(NICU) 回復期治療室(GCU)	産科婦人科 周産母子センター	
4F	脳神経外科 皮膚科 臨床研究支援センター ひまわり学級 けやき学級	循環器内科 心臓血管外科	
3F	集中治療部(ICU) 中央手術部	精神科	
2F	血液浄化療法部 感染制御部 輸血部	泌尿器科 糖尿病・内分泌内科 老年内科	
1F	放射線診断科 放射線治療科 歯科口腔外科 理容室	救急部 救急科 救急外来 内視鏡・超音波センター	
B1	医療情報部 医事課医療情報室 放射線治療センター 中央材料部 SPDセンター	臨床工学センター	

厨房棟

7F

6F

5F

4F

3F

2F

1F

B1

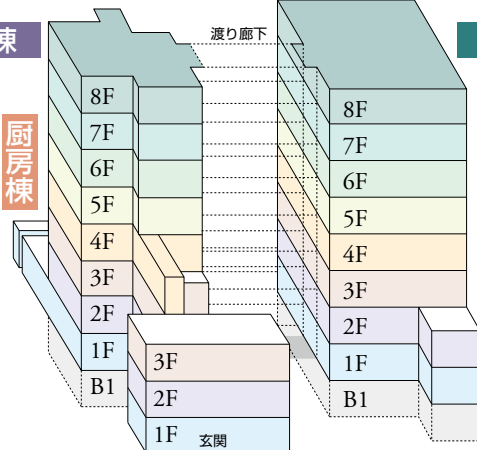
3F

2F

1F 玄関

外来・中央診療棟

外来・中央診療棟			
皮膚科 精神科 病理診断科・病理部 腫瘍情報センター 医療安全管理部 看護部	消化器外科 食道外科 消化器内科(肝・胆・膵) 消化器内科(胃腸・食道) 血液内科 腎臓内科 リウマチ科 泌尿器科 耳鼻咽喉科 歯科口腔外科 腫瘍内科 外来化学療法部 脳神経外科 麻酔科 漢方外来 小児科 小児外科 中央検査部 薬剤部 緩和ケアセンター	精神科	
	総合診療部 緩和ケア外来 がん看護外来 循環器内科 呼吸器内科 心臓血管外科 呼吸器外科 乳腺・内分泌外科 産科 婦人科 眼科 整形外科 神経内科 心療センター 糖尿病・内分泌内科 老年内科 リハビリテーション科 放射線診断科 放射線治療科 中央放射線部 地域医療患者支援センター がん相談支援センター 外来受付・会計 入院案内 医事課 医療サービス室 売店 コーヒーショップ ATM 警備員室 防災センター 院内図書館	救急部 救急科 救急外来 内視鏡・超音波センター	
		臨床工学センター	



外来・中央診療棟

外来・中央診療棟			
皮膚科 精神科 腫瘍情報センター	病理診断科・病理部 医療安全管理部 看護部	消化器外科 食道外科 血液内科 腎臓内科 歯科口腔外科 腫瘍内科 漢方外来 小児科	消化器内科(肝・胆・膵) 泌尿器科 耳鼻咽喉科 外来化学療法部 脳神経外科 小児外科 中央検査部
総合診療部 緩和ケア外来 心臓血管外科 呼吸器外科 眼科 整形外科 神経内科 糖尿病・内分泌内科 老年内科	がん看護外来 循環器内科 乳腺・内分泌外科 産科 婦人科 心療センター リハビリテーション科	放射線診断科 放射線治療科 地域医療患者支援センター 外来受付・会計 入院案内 売店 コーヒーショップ	中央放射線部 がん相談支援センター 医事課 医療サービス室 ATM 警備員室 防災センター
院内図書館			

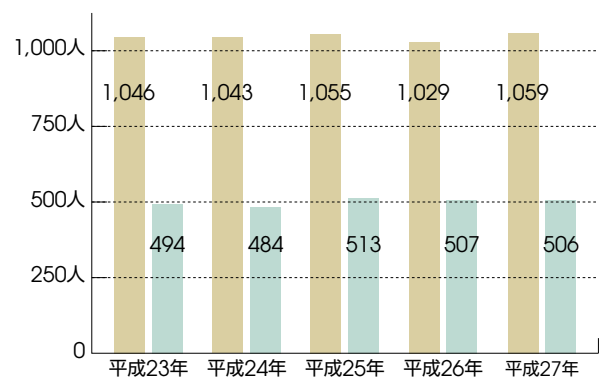
〈診療科別入院及び外来患者数〉

平成27年度

区分	入 院		外 来	
	延患者数	一日当平均患者数	延患者数	一日当平均患者数
消化器内科	13,322	36	20,248	83
神経内科	2,807	8	4,882	20
循環器内科	9,755	27	16,638	68
呼吸器内科	5,744	16	6,620	27
血液内科	12,192	33	6,221	26
腎臓内科	1,537	4	2,291	9
リウマチ科	1,193	3	7,016	29
糖尿病・内分泌内科	3,696	10	15,956	66
老年内科	0	0	0	0
消化器外科	9,342	26	5,372	22
呼吸器外科	4,489	12	1,980	8
食道外科	6,726	18	1,924	8
乳腺・内分泌内科	1,676	5	5,042	21
心臓血管外科	10,157	28	2,567	11
脳神経外科	10,223	28	7,453	31
小児外科	1,286	4	1,647	7
小児科	9,299	25	8,336	34
産科	5,519	15	5,301	22
婦人科	4,794	13	14,899	61
精神科	10,836	30	18,669	77
整形外科	13,026	36	14,960	62
皮膚科	5,661	16	19,367	80
泌尿器科	12,016	33	14,426	59
眼科	8,895	24	17,237	71
耳鼻咽喉科	11,141	31	15,280	63
放射線診断科	115	0	1,118	5
放射線治療科	2,269	6	3,633	15
麻酔科	0	0	1,046	4
リハビリテーション科	0	0	0	0
腫瘍内科	2,520	7	1,839	8
救急科	247	1	2,795	12
病理診断科	0	0	0	0
歯科口腔外科	4,118	11	12,480	51
計	184,601	506	257,243	1,059

〈年度別1日平均患者数〉

外来患者数 入院患者数



〈中央診療施設等〉

- 中央検査部 ● 中央手術部 ● 中央放射線部
 - 中央材料部 ● 集中治療部 ● 救急部 ● 輸血部
 - リハビリテーション部 ● 医療情報部
 - 血液浄化療法部 ● 中央病歴部
 - 周産母子センター ● 病理部 ● 総合診療部
 - 臨床研究支援センター ● 臨床工学センター
 - 移植検査センター ● 総合臨床教育研修センター
 - 内視鏡・超音波センター ● 遺伝子医療部
 - 腫瘍情報センター
 - 地域医療患者支援センター、がん相談支援センター
 - 化学療法部 ● 緩和ケアセンター
 - 心療センター ● 栄養管理部 ● 肝疾患相談センター
 - 腎疾患先端医療センター
-
- 医療安全管理部 ● 感染制御部 ● 薬剤部 ● 看護部



ヘリポート及び立体駐車場

国際資源学研究科附属鉱業博物館 Mineral Industry Museum



〈入館案内〉

- 開館時間／9:00～16:00
- 休 館 日／年末年始(12月26日～翌年1月5日)
- 入 館 料／〈 大 人 〉100円
〈高校生以下〉無料

〈平成28年度鉱業博物館行事〉

- ジュニアサイエンススクール
〈期間〉7月下旬(2日間) 〈対象〉小学校6年生

- 附属図書館・鉱業博物館企画展
デジタル画像による鉱山再発見
〈期間〉4月22日～6月20日
〈会場〉鉱業博物館



1階展示室
魚眼石(インド・ジャルゴアン)



サイエンスボランティアによる案内



ミュージアム
ショップ



平成27年度ジュニアサイエンススクール
「鉱物ウォッチ！キラキラ石は何のせい？
～鉱物採集とオリジナル標本づくり～」



中央ホール

附属学校園及び教育研究施設等

Affiliated School
Facilities for Education
and Research

平成28年5月1日現在



附属中学校

●附属学校園

区 分		総定員	学級数	現 員						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
附属幼稚園	2年保育	12	4	—		—		〈5歳児〉12		12
	3年保育	84		〈3歳児〉32		〈4歳児〉31		〈5歳児〉18		81
附属小学校		627	18	95	93	95	87	90	89	549
附属中学校		480	12	153	142	147	—			442
附属 特別支援学校	小学部	18	3	6		5		7		18
	中学部	18	3	6	6	7	—			19
	高等部	24	3	8	10	10	—			28



附属教育実践研究支援センター

●附属教育実践研究支援センター

【施設目的】
学習環境及び教育臨床等の教育実践に関する総合的研究

【研究部門等】
学校教育研究部門、教師発達研究部門、教育臨床研究部門、
学校連携推進室、教職キャリア支援室、臨床心理相談室

〈国際資源学研究科〉
●附属鉱業博物館

【施設目的】
●鉱業に関する教育、研究及び調査を行う
●鉱業関係の博物館資料の収集、保管及び展示

●標本資料／約20,000点
●公開標本／約3,300点



附属病院シミュレーション教育センター

●附属病院シミュレーション教育センター

【施設目的】秋田県内医療人の更なるスキルアップと質の高い専門医の養成に繋げ、医学シミュレーション教育が秋田県の医療再生の礎となるよう、秋田県と秋田大学の協同によって開設

●1階:TVセミナー室、画像診断学習室 ●2階:緊急処置ラボ、臨床基本手技ラボ ●3階:外科研修室、外科手技ラボ、産婦人科手技ラボ、臨床専門手技ラボ

〈医学系研究科〉
●附属地域包括ケア・介護予防研修センター

【施設目的】
高齢化率全国1位の秋田県における地域包括ケアシステム(自分が望む場で自分らしく最後まで暮らせるような地域のケア体制)構築に向けて、大学の持つ教育・研究・地域貢献機能を用いて参与し貢献する。

【センター活動内容】
看護職、介護職、ケアマネジャーなどを対象とした、教育活動としての現任教育プログラムの開講、基礎教育に役立てるための模擬患者ボランティア養成(28年度)。地域貢献として認知症サポーター養成の出前講座の開催、暮らしの保健室の開設(27年度)など。

〈理工学研究科〉
●附属地域防災力研究センター

【施設目的】
自然災害の防止・軽減に資する研究を推進するとともに、地域の防災・減災に関する研究と支援等を通して、安全・安心な地域社会の形成に貢献する

【研究部門等】
地震災害分野、津波災害分野、河川災害分野、斜面災害分野、火山災害分野、情報・計画分野



附属ものづくり創造工学センター

●附属ものづくり創造工学センター

【施設目的】
ものづくり実践・実習教育の推進と創造型エンジニアの育成及びものづくりや科学技術に関するセミナー等を通して、地域社会へ貢献する

【センター活動内容】
学生自主プロジェクト、子どもものづくり教室、大人ものづくり教室、ライセンス講習会、ものづくりレクチャーシリーズ、能代宇宙イベント、テクノキャリアゼミ、ものづくりサプライセンター



附属理工学研究センター

●附属理工学研究センター

【施設目的】
理学と工学の融合により、環境・エネルギー・材料等の分野で、地域社会に役立ち、世界に発信できる研究を行う

【所属教員の研究分野】
磁性材料・磁気計測、無機環境材料、機能性薄膜作製プロセス、高温物理化学、生物学生化学、地球科学・鉱物学・環境、水資源・地表環境学、原子間力顕微鏡、岩石・同位体化学、超分子化学

学内共同教育研究施設



● 生体情報研究センター

【設置目的等】

脂質、タンパク質、核酸等の生体情報分子に関わる特色ある研究活動の実施、国内外の関連機関、例えば群馬大学等と有機的な連携、ならびに国民との科学・技術対話の環境整備を行い、本学発の研究成果を継続的に地域と世界に発信する



● 情報統括センター

【設備等】

- 教育用PC(計378台)：PC実習室1～5、PC実習室A/B、本道PC実習室、グループ学習コーナー、スキャナーコーナー、多言語コーナー
- 情報サービス：Webメール、大判プリンタ、大規模演算サーバ(Express5800/A1080a-D)、仮想サーバホスティング(Express/B120b-d)
- 情報ネットワーク
有線LAN(フロアスイッチまで1～4Gbps)、無線LAN、学外接続ネットワーク(1Gbps)

● 産学連携推進機構

【設置目的等】

民間等外部の機関との共同研究を推進することにより、秋田大学の教育・研究の進展を図るとともに、研究成果の知的財産化及び知的財産の社会還元を促進し、社会における技術開発の振興及び技術発展に寄与する。

● 国際資源学教育研究センター

【設置目的等】

国際的視野を持つ高度資源開発人材の養成と我が国の資源セキュリティ及び安定供給体制の確立に貢献するとともに、国際資源人材ネットワークを通して一層の国際交流及び国際貢献を図る。



● バイオサイエンス教育・研究サポートセンター

【設備等】

- 動物実験部門：【小動物区域】SPF飼育室(16室)、クリーン飼育室(9室)、実験室(4室)
【中・大動物区域】SPF飼育室(1室)、クリーン飼育室(1室)、コンベンショナル飼育室(4室)、実験室(4室)、X線室など 【特殊実験区域】感染動物実験室、ケミカルハザード実験室など
- 放射性同位元素部門：【管理用設備】放射線管理総合システム・サーベイメーター各種
【実験用設備】遠心機各種、GeneAmp PCR System 2台など 【測定用設備】液体シンチレーションカウンター2台など 【遺伝子組換え実験設備】旋回培養器、安全キャビネットなど
- 分子医学部門：透過型電子顕微鏡、分光光度計類、遺伝子導入装置、DNAシーケンサー、DNA増幅装置、フローサイトメータ／セルソーター、共焦点レーザー顕微鏡、高速液体クロマトグラフ／質量分析装置など
- 教育研究連携部門



● 放射性同位元素センター

【設備等】

- 非密封線源実験エリア：-10℃及び4℃低温実験室：オークリッジフード3基及び安全キャビネット1基、液体シンチレーションカウンター、トリチウムガス計測・実験装置、各種スケラー、サーベイメーター、プレートアナライザー
- 密封線源実験エリア：マルチチャンネルγ線スペクトルメーター、高速液体クロマトグラフ質量分析装置、イメージアナライザー、水平型X線回折装置

16種類の非密封線源及び5種類の密封線源が使用可能



● 環境安全センター

【設備等】

- 廃液処理棟：無機系廃液－フェライト化処理、有機系廃液／有害固形廃棄物－噴霧燃焼／焼却処理、水銀・シアン系廃液－酸化分解・吸着処理、フッ素・リン酸系廃液－石灰化処理、COD廃液－フェントン処理
- 実験・分析棟：ガスクロマトグラフ／質量分析計、ガスクロマトグラフ、原子吸光度計、液体クロマトグラフ、X線分析装置、その他必要機器



● 地方創生センター1号館

【設備等】（センター内設置の秋田産学官共同研究拠点センター導入機器）

超純水製造装置、ドラフトチャンバー、マイクロウェーブ試料前処理システム、超高分解能電界放射型走査型電子顕微鏡、炭素・水素・窒素・硫黄・酸素全自動分析装置、フレーム/ファーンズ高分解能連続光源原子吸光分析装置、元素分析装置、高分解能核磁気共鳴スペクトル装置(600MHz)、X線光電子分光分析装置、マイクロフォーカスX線CT透視装置、水銀ボロシメータ、超高速液体クロマトグラフシステム、光散乱GPC分子重量測定装置、テラヘルツ分光測定装置、バイポーラ電源、活性汚泥処理装置、スプレッドドライヤ装置、比表面積・細孔径分布測定装置、触媒分析装置、リアルタイムPCRシステム、マルチチャネルカウンタ、回転式粘度計、四重極・飛行時間型MS/MS分析システム、ガス吸着量測定装置、モジュール式電気化学測定システム、共焦点レーザ走査型顕微鏡、マトリックス支援レーザー脱離イオン化法飛行時間型質量分析装置、バイオクリーンベンチ

● 地方創生センター

【設置目的等】

地方創生に取り組む地(知)の拠点大学として、地域との協働による地域振興策の取組及び地域の防災等に関する研究・支援並びに地域の産業を成長させる研究を推進させ、もって地域を担う人材育成を推進し、地域の産業振興と活性化に貢献する。

● 地方創生センター2号館

【設備等】

● 新リサイクル技術・評価システム：粒子径・表面電位解析装置、イオンクロマトグラフ、形状測定マイクロスコープ、走査型プローブ顕微鏡、ICP発光分光分析装置、示差熱天秤、ディスク型手動粉砕器、ローリ型磁選機、レーザーデータ電位計、エリース非鉄金属選別器、真空アーク溶解炉など
● 高度機能素材設計・評価システム：電界放射型走査電子顕微鏡、多層構造膜作製装置、多元合金膜作製装置、走査電子顕微鏡、高真空型走査プローブ顕微鏡、高感度磁化測定装置、高真空熱処理装置、薄膜X線回折装置、粉末X線回折装置、磁気記憶装置材料分析・評価システムなど

センター

Center for Education and Research

	設置目的等
評価センター	● 秋田大学における自己点検・評価活動とその改善努力の支援 ● 評価とそのシステムについての研究・開発
教育推進総合センター	● 教養基礎教育を中心とする教育体制の構築と教育活動の推進 ● 教養基礎教育及び専門教育の調査・研究・開発による改善・充実 ● 高校と大学の学びの接続や入学選抜方法の研究・開発
学生支援総合センター	● 種々の生活相談及び授業料免除や奨学金交付推薦等の生活支援 ● 大学祭等の課外活動支援及び課外活動施設の整備・充実の推進 ● 就職ガイダンスの実施及び就職情報提供等の就職活動支援
教員免許状更新講習推進センター	● 教員免許状更新講習の企画・実施 ● 秋田県教育委員会・県内大学等諸機関との連携
国際交流センター	● 国際交流に関する企画・広報活動 ● 国際学術交流の推進 ● 国際教育交流の推進

技術組織

Technological Organization

	設置目的等
総合技術部	● 教育研究活動の技術支援を全学的に推進 ● 技術系職員が持つ専門技術を本学の共通の財産として継承・発展させ、その能力及び資質等の向上を図るとともに優れた人材を確保

福利厚生施設等

Welfare Facilities

施 設	主な設備内容			
保健管理センター	学生相談室、休養室、診察室、処置室、エックス線室、聴力検査室、心電図室、カウンセリング室、検査室、所長室、准教授室、事務室、器材室			
大学会館(クレール) 〈手形キャンパス〉	●1階／管理事務室、食堂、厨房、喫茶室、食品・弁当コーナー、アメニティーコーナー、アルバイトセンター、自販機コーナー、イベントホール ●2階／研修室(1・2・3)、和室(あじさい・りんどう)、会議室、書籍・文具・旅行コーナー			
本道会館(メディココ) 〈本道キャンパス〉	●1階／食堂、厨房、売店、事務室、倉庫 ●2階／研修室、談話室、大会議室、小会議室、和室、物品庫			
学 生 寮	区 分	手形寮(女子) (留学生除く)	本道寮(女子) (留学生除く)	西谷地寮(男子) (留学生含む)
	建物延面積	746㎡	1,076㎡	3,171㎡
	室 数	40室	31室	130室
	収容定員	40人	31人	130人
国際交流会館	●居 室／単身室(外国人留学生用28室、外国人研究者室5室)、家族室(外国人研究者用2室)、夫婦室(外国人研究者用3室) ●管理関係／管理室、設備室、倉庫 ●共用関係／多目的ホール、ミーティングルーム、洗濯室			
留学生会館	●居室／単身室(27室)、夫婦室(3室) ●管理関係／事務室、機械室、倉庫 ●共用関係／談話室、和室、洗濯室			



体育施設

Sports Facilities

施 設	面 積(㎡)			備 考
	手形地区	本道地区	保戸野地区	
陸上競技場	24,637	} 20,909	—	400m／6コース、メイン／8コース
野球場	20,378		—	—
球技場	陸上競技場と 併用、人工芝	陸上競技場と 併用	—	サッカー、ラグビー(本道地区はサッカー、 ラグビー、アーチェリー、準硬式野球)
ハンドボール場		—	—	—
大体育館	2,591	1,079	3,588	バスケットボール、バレーボール、 バドミントン、柔道、剣道 等 (本道地区はバレーボール、バドミントン、 バスケットボール、卓球、フットサル)
小体育館	750	—	—	体操、卓球、空手道 等
柔剣道場(武道場)	—	—	373	柔道、剣道
弓道場	149	—	—	的場(44㎡)は含まない
テニスコート	(5面)3,238	(5面)3,614	—	—
プール(25m)	800	—	—	7コース
運動場	—	—	14,923	—



東京サテライト

Tokyo Satellite

受験生への情報提供を行うとともに、産学官連携の推進や首都圏での社会貢献活動を行うための拠点として「秋田大学東京サテライト」を設置しています。

〈業務紹介〉

1. 受験生への情報提供

- 入試説明会、各学校への情報の提供、訪問活動

2. 産学官連携活動の支援

- 共同研究、科学技術相談の窓口 ●学術情報、技術シーズの提供
- シンポジウム、学会、研究会などの学会会議の開催
- 研究者、研究成果の紹介

3. 社会貢献活動の支援

- 講演会、セミナーなどの開催

4. 就職活動の支援

- 企業からの求人の申込 ●在学生への就職情報の提供

5. 同窓会活動の支援

- 同窓会への大学情報などの提供

- 所在地 〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター 606号室
- TEL 03-5440-9104(FAX兼用)
- ホームページ <http://www.akita-u.ac.jp/honbu/satellite/>



キャンパス・イノベーションセンター

横手分校・北秋田分校・男鹿なまはげ分校

秋田大学の県内への情報発信と、より密接な地域連携を目指して、横手市、北秋田市、男鹿市へそれぞれ分校を開設しています。

横手分校

〈平成21年8月5日開設〉

- 学生による「いぶりがっこ」の製造をはじめとする地域活動への学生参加など地域課題の解決に向けた取り組みを実施しています。
- 教師を目指す学生たちを対象とした「教育ミニミニ実習」などの小中高大連携事業を推進しています。

- 連絡先
〒013-0036 横手市駅前町1-21
横手市交流センター Y²ぶらざ内
- TEL 0182-38-8304
- FAX 0182-32-4056

北秋田分校

〈平成22年11月17日開設〉

- 農薬と化学肥料を使わない昔ながらの農法で、作付けから収穫までの作業工程を一貫して行う「ふるさとの風景に学ぶ 一米づくりで紡ぐ心と自然」事業を実施しています。
- 小中学生を対象とした科学教室を開催しています。

- 連絡先
〒018-3392 北秋田市花園町19-1
北秋田市役所総務部総務課総務班
- TEL 0186-62-1111
- FAX 0186-63-2586

男鹿なまはげ分校

〈平成25年9月30日開設〉

- 学生力を活用し、子どもたちへの自学自習支援や医学部訪問事業を行い、学力の底上げに取り組んでいます。
- 首都圏大学の文化系・体育系クラブの宿泊合宿誘致を通じ、交流人口増加による地域活性化に取り組んでいます。

- 連絡先
〒010-0595 男鹿市船川港船川字泉台66-1
男鹿市総務企画部 企画政策課
- TEL 0185-24-9126
- FAX 0185-23-2424

インフォメーションセンター

Information Center

秋田大学の教育・研究の取り組みや、常設展示として成田為三・南木佳士など著名な卒業生の業績や作品等を展示・紹介。また、学生や教職員による企画展も開催しています。

〈入館案内〉

- 開館時間／10:30～17:00
- 開館日／平日のみ(入館無料)



インフォメーションセンター外観



オープン
スペースの
様子

〈主な常設展示〉



なりた ためぞう
成田 為三

秋田県師範学校(教育文化学部的前身)出身で、「浜辺の歌」「秋田県民歌」など、300曲以上の優れた作品を世に残しています。本格的に作曲の勉強をしたのは、秋田県師範学校時代であることが研究により明らかにされています。



なぎ けいし
南木 佳士

秋田大学医学部の第二期生である彼は、長野県佐久総合病院で医師を続けながら、作家活動を行っています。作品には、新設間もない秋田大学医学部を舞台に、医学部在学の4人の主人公が抱える悩みや葛藤などの青春群像を描いた「医学生」や、第100回芥川賞を受賞した「ダイヤモンドダスト」等があります。



まつだ ときこ
松田 解子

秋田県女子師範学校(教育文化部の前身)出身の小説家で、数多くの作品を世に残しています。1966年、実母をモデルに荒川鉾山に生きた人々を描いた長編「おりん口伝」の連載を始め、この作品で第8回田村俊子賞(1968年)等を受賞しました。



あべ まさたけ
阿部 雅龍

工学資源学部出身の「夢を追う男」冒険家として活躍。大学在学時から自転車での南米縦断やアマゾン川いくだりなど、数々の冒険を成し遂げてきました。現在、2017年の南極大陸単独走行1,500kmを目標に活動が続いています。

〈主な企画展〉



OBIによる講演会



学生による企画展



サークル企画展

平成28年度 主な課外行事

Main Extracurricular Events(Academic Year of 2015)

第51回^{きょうほ}今日歩大会 5月28日(土)・29日(日)

男鹿半島の寒風山を午後9時に出発して、大学まで約40キロの道のりを走(踏)破するもので、例年学生・教職員および一般市民500人ほどが参加して行われる本学の名物行事です。



第66回東北地区大学体育大会

5月～11月

東北地区の国・公・私立の47大学による体育大会で、各県分担し、男女合わせて24種目の競技が行われます。



サークルリーダー研修会 9月下旬

課外活動団体のリーダーを中心に日々の活動に必要な知識やAED(自動体外式除細動器)の取扱い方法を修得させるとともに、参加者相互の交流や討論を深めるため、毎年実施しています。



大 学 祭 10月15日(土)・16日(日)

各学部間の交流、また学生と教職員や一般市民との交流を深めることを目的として毎年実施し、学内外を問わず親しまれている行事です。



全学駅伝競走大会 11月5日(土)

学生同士や、学生と教職員との交流を深め、スポーツマン精神を養うことを目的に、例年男女合わせて30チームほどが健脚を競っています。応援を含めて全学が熱狂する行事です。



※日程については、変更になる場合もあります。

資料編

- 沿革
- 歴代学長
- 運営組織
- 教育研究組織
- 事務組織
- 役職員
- 学生の定員・現員
- 入学志願者・入学状況
- 出身高校所在地別在学状況
- 卒業者・修了者数
- 学位授与数
- 卒業者等就職状況
- 平成27年度学生表彰等受賞者
- 外国人留学生数
- 外国人研究員等
- 国際交流協定校
- 公開講座(平成27年度)
- 国内機関との連携・協力協定
- 役員数
- 教職員数
- 平成28年度予算
- 外部資金受入状況
- 平成28年度科学研究費助成事業採択状況
- 土地・建物
- 各連絡先・所在地一覧
- 手形地区施設配置図
- 本道地区施設配置図／保戸野地区施設配置図
- アクセス

沿革

Historical Sketch



●百周年記念館(平成24年10月竣工)

工学資源学部創立100周年を記念し建造
秋田大学の前身である秋田鉱山専門学校の外観を再現

明治6年(1873)9月
秋田伝習学校

明治7年(1874)5月
秋田太平学校

明治11年(1878)4月
秋田県師範学校

明治11年(1878)12月
秋田師範学校

明治13年(1880)5月
秋田女子師範学校

明治19年(1886)8月
秋田県尋常師範学校

明治31年(1898)4月
秋田県師範学校

明治42年(1909)4月
秋田県女子師範学校

昭和18年(1943)4月
秋田師範学校(官立)

明治43年(1910)3月
秋田鉱山専門学校(官立)

昭和19年(1944)4月
秋田青年師範学校(官立)

昭和10年(1935)4月
秋田県立青年学校
教員養成所

大正13年(1924)3月
秋田県立実業補習学校
教員養成所

医療技術短期大学部 〈平成元年(1989)4月～平成19年(2007)3月〉 ●理学療法学科・作業療法学科 〈平成2年(1990)4月分離増設〉 【看護学科〈平成元年(1989)10月】	専攻科 ●鉱山学専攻科 〈昭和29年(1954)4月～昭和40年(1965)3月〉 ●教育専攻科 〈昭和40年(1965)4月～平成元年(1989)3月〉 ●特殊教育特別専攻科 〈昭和55年(1980)4月～平成20年(2008)3月〉	学内共同教育研究施設 ●産学連携推進機構〈平成19年(2007)11月〉 【知的財産本部〈平成16年(2004)4月〉+地域共同研究センター〈平成5年(1993)4月】 ●情報統括センター〈平成27年(2015)4月〉【情報処理センター〈昭和64年(1989)1月】 ●バイオサイエンス教育・研究センター〈平成16年(2004)4月〉 ●放射性同位元素センター〈昭和47年(1974)6月〉 ●環境安全センター〈平成16年(2004)4月〉 ●国際資源学教育研究センター〈平成21年(2009)10月〉 ●地方創生センター〈平成28年(2016)4月〉 ●生体情報研究センター〈平成24年(2012)4月〉	センター ●評価センター〈平成16年(2004)4月〉 ●教育推進総合センター〈平成16年(2004)4月〉 ●教員免許状更新講習推進センター〈平成21(2009)4月〉 ●学生支援総合センター〈平成16年(2004)4月〉 ●国際交流センター〈平成20年(2008)2月〉 【国際交流推進機構〈平成16年(2004)4月】 ※社会貢献推進機構 〈平成16年(2004)4月～平成21年(2009)3月〉	●附属図書館 〈昭和24年(1949)5月〉 ●保健管理センター 〈昭和49年(1974)4月〉
--	--	--	---	--

歴代学長



佐野 秀之助
(昭25.5.6～昭30.12.24)



渡邊 萬次郎
(昭31.3.1～昭41.2.28)



伊藤 泰一
(昭41.3.1～昭44.6.9)



渡邊 武男
(昭46.2.23～昭51.2.22)



九嶋 勝司
(昭51.2.23～昭56.2.22)



梅津 良之
(昭56.2.23～昭61.2.22)



渡部 美種
(昭61.2.23～平3.2.22)



新野 直吉
(平3.2.23～平8.2.22)



徳田 弘
(平8.2.23～平13.2.22)



三浦 亮
(平13.2.23～平20.3.31)



吉村 昇
(平20.4.1～平26.3.31)



澤田 賢一
(平26.4.1～平28.3.1)



山本 文雄
(平28.4.1～)

事務
取扱

劔木 亨弘
(昭24.5.31～昭24.7.30)

池田 謙三
(昭24.7.31～昭25.5.5)

五十嵐 勇
(昭30.12.25～昭31.2.29)

藤島 主殿
(昭44.6.10～昭46.2.22)

学長
代行

小川 信明
(平28.3.2～平28.3.31)

経営協議会
(15人)
Management Committee
経営に関する重要事項を審議

- 学長
-
- 理事(総務・情報・病院経営担当)
-
- 理事(地方創生・研究担当)
-
- 理事(財務・施設・環境担当)
-
- 理事(企画担当)〈非常勤〉
-
- 医学部附属病院長
-
- 副学長(評価担当)
-
- 学外委員(8人)
-

役員会
(6人)
Board of Directors
経営、教学の両面にわたり、
特定の重要事項について、
学長意思決定に先立ち議決

- 学長
-
- 理事(総務・情報・病院経営担当)
-
- 理事(地方創生・研究担当)
-
- 理事(教育・学生・入試担当)
-
- 理事(財務・施設・環境担当)
-
- 理事(企画担当)〈非常勤〉
-

監事
(2人)
〈うち、非常勤1人〉
Auditors

教育研究評議会
(21人)
Education and
Research Council
教育に関する重要事項を審議

- 学長
-
- 理事(総務・情報・病院経営担当)
(兼)情報統括センター長
-
- 理事(地方創生・研究担当)
-
- 理事(教育・学生・入試担当)
-
- 副学長(評価担当)
-
- 国際資源学研究科長
-
- 教育文化学部長
-
- 医学系研究科長
-
- 理工学研究科長
-
- 附属図書館長
-
- 医学部附属病院長
-
- 産学連携推進機構長
-
- 教育推進主管
-
- 各学部長等が推薦する
当該学部等の教授
-

学長選考会議
(12人)
President Nomination Committee

- 経営協議会の学外委員で、経営協議会において選出された者(5人)
-
- 国際資源学研究科長／教育文化学部長／医学系研究科長／理工学研究科長／副学長(評価担当)
-
- 理事(総務・情報・病院経営担当)／理事(財務・施設・環境担当)
-

大学運営会議
(12人)

- 学 長
-
- 理事(総務・情報・病院経営担当)／理事(地方創生・研究担当)／理事(教育・学生・入試担当)／理事(財務・施設・環境担当)
-
- 副学長(評価担当)
-
- 国際資源学研究科長／教育文化学部長／医学系研究科長／理工学研究科長／附属図書館長／医学部附属病院長
-

教育研究組織

Academic Organization

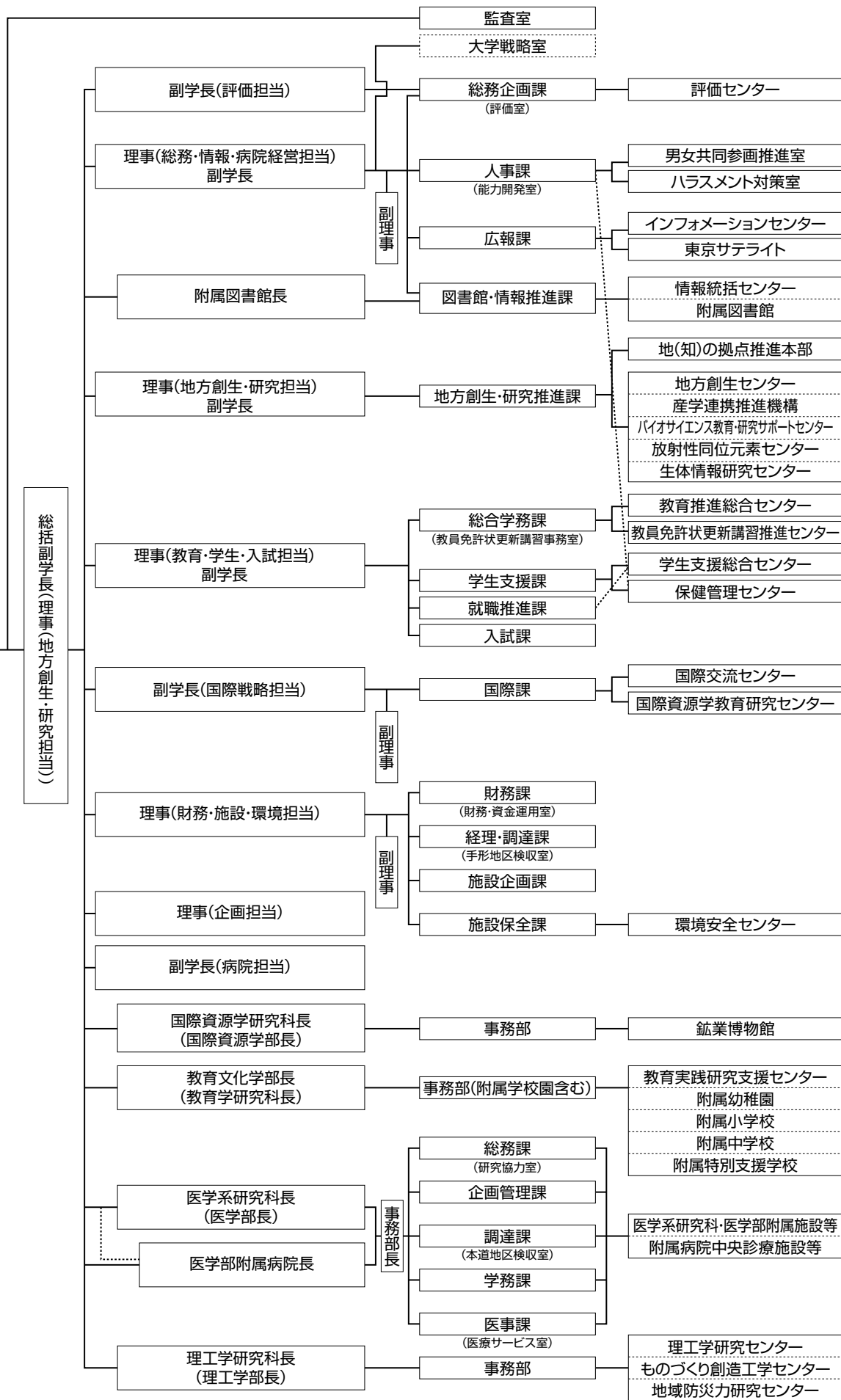
秋田大学
Akita University



事務組織

Administrative Organization

学長



役職員

Administrative Staff

平成28年6月1日現在

役員等		
学長	山本	文雄
理事(総務・情報・病院経営担当)・副学長	近藤	克幸
理事(地方創生・研究担当)・総括副学長	小川	信明
理事(教育・学生・入試担当)・副学長	四反田	素幸
理事(財務・施設・環境担当)	金城	正浩
理事(企画担当)(非常勤)	関根	近子
監事	真鍋	雅文
監事(非常勤)	吉岡	順子
副学長(評価担当)	神谷	修
副学長(国際戦略担当)	佐藤	時幸
副学長(病院担当)	羽瀧	友則

学長補佐		
学長補佐(ハラスメント担当)	中村	雅英
学長補佐(男女共同参画担当)	渡部	育子
学長補佐(知的財産・医理工連携担当)	尾野	恭一
学長補佐(研究支援・イノベーション担当)	渋谷	嗣
学長補佐(地域協働担当)	志立	正弘
学長補佐(地域産業担当)	村岡	幹夫
学長補佐(国際交流担当)	藤井	光
学長補佐(評価担当)	上田	晴彦

経営協議会		
学長	山本	文雄
理事(総務・情報・病院経営担当)	近藤	克幸
理事(地方創生・研究担当)	小川	信明
理事(財務・施設・環境担当)	金城	正浩
理事(企画担当)(非常勤)	関根	近子
医学部附属病院長	羽瀧	友則
副学長(評価担当)	神谷	修
秋田魁新報社代表取締役社長	小笠原	直樹
秋田県医師会会長	小山田	雅
東京国立博物館館長	銭谷	眞美
秋田銀行相談役	藤原	清悦
東北大学名誉教授	吉本	高志
秋田県教育委員会教育長	米田	進
秋田県看護協会会長	高島	幹子
東北電力執行役員秋田支店長	阿部	聡

教育研究評議会		
学長	山本	文雄
理事(総務・情報・病院経営担当)(兼)情報統括センター長	近藤	克幸
理事(地方創生・研究担当)	小川	信明
理事(教育・学生・入試担当)	四反田	素幸
副学長(評価担当)	神谷	修
国際資源学研究科長	佐藤	時幸
教育文化学部長	武田	篤
医学系研究科長	伊藤	宏
理工学研究科長	村岡	幹夫
附属図書館長	麻生	節夫
医学部附属病院長	羽瀧	友則
産学連携推進機構長	渋谷	嗣
教育推進主管	後藤	猛
国際資源学研究科教授	柴山	敦
国際資源学研究科教授	宮本	律子
教育文化学部教授	上田	晴彦
教育文化学部教授	佐々木	和貴
医学系研究科教授	尾野	恭一
医学系研究科教授	兒玉	英也
理工学研究科教授	山村	明弘
理工学研究科教授	田島	克文

大学戦略室		
室長	近藤	克幸
室長補佐	高橋	康弘

本部等		
副理事(総務担当)	大村	浩志
副理事(国際担当)(兼)危機管理調整役	高橋	康弘
副理事(財務・施設・環境担当)	大宮	一弘
調査役	今野	悟

本部等		
監査室長	柴田	広実
総務企画課長	菅原	章
人事課長(兼)能力開発室長	中井	正宏
広報課長	稲葉	倫子
図書館・情報推進課長	猿田	悌弘
地方創生・研究推進課長	大山	弘
総合学務課長	田村	悟
就職推進課長(兼)学生支援課長	藤井	和明
入試課長	工藤	晃義
国際課長	佐藤	哲也
財務課長	戸島	隆造
経理・調達課長	榎	清幸
施設企画課長	森屋	昭則
施設保全課長	佐々木	盛

センター・機構等		
産学連携推進機構長	渋谷	嗣
情報統括センター長	近藤	克幸
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター長	久場	敬司
放射性同位元素センター長	寺境	光俊
環境安全センター長	進藤	隆世志
国際資源学教育研究センター長	今井	亮
生体情報研究センター長	石井	聡
地方創生センター長	小川	信明
評価センター長	神谷	修
教育推進総合センター長	四反田	素幸
学生支援総合センター長	四反田	素幸
教員免許状更新講習推進センター長	浦野	弘
国際交流センター長	佐藤	時幸
保健管理センター所長	伏見	雅人
地(知)の拠点推進本部長	山本	文雄
教育推進主管	後藤	猛

附属図書館		
館長	麻生	節夫
医学部分館長	田中	正光
館長補佐	渡辺	寧
館長補佐	阿部	昇

国際資源学研究科		
研究科長	佐藤	時幸
事務長	大川	卓男
附属鉱業博物館長	今井	忠男

教育文化学部		
学部長	武田	篤
事務長	柳谷	勉
附属教育実践研究支援センター長	佐藤	修司
附属幼稚園長	奥山	順子
附属小学校長	林	信太郎
附属中学校長	川村	教一
附属特別支援学校長	長瀬	達也

医学系研究科		
研究科長	伊藤	宏
附属病院長	羽瀧	友則
附属地域包括ケア・介護予防研修センター長	中村	順子
事務部長	原	忠篤
総務課長	脇元	直彦
企画管理課長	高橋	尚之
調達課長	太田	貞祐
学務課長	藤原	孝
医事課長	針金	誠悦

理工学研究科		
研究科長	村岡	幹夫
事務長	高橋	正樹
附属理工学研究センター長	齊藤	準
附属ものづくり創造工学センター長	神谷	修
附属地域防災力研究センター長	松富	英夫

学生の定員・現員

〈学 部〉

平成28年5月1日現在

学部	学科・課程	入学定員	収容定員	1年次	2年次	現 員 3年次	4年次	5年次	6年次	計				
国際資源学部	国際資源学科	120	360	131	119	118				368				
	小 計	120	360	131	119	118				368				
教育文化学部	学校教育課程	110	430	117	121	130	101				469			
	地域文化学科	100	300	104	102	102	308							
【注】 ※1：平成26年度 から学生募集停止	地域科学課程	※1	65			4	67				71			
	国際言語文化課程		65			5	76				81			
	人間環境課程		60			2	65				67			
	小 計	210	920	221	223	243	309				996			
	医学科	〈5〉124	755	128	135	122	123	129	130	767				
	保健学科	(14)106	452	114	115	116	108				453			
医学部	小 計	〈5〉 (14)230	1,207	242	250	238	231	129	130	1,220				
理工学部	生命科学科	45	135	48	43	40				131				
	物質科学科	110	330	121	106	109				336				
	数理・電気電子情報学科	120	360	132	139	119				390				
	システムデザイン工学科	120	360	134	131	130				395				
	各学科共通	12	12											
	小 計	(12)395	1,197	435	419	398				1,252				
工学資源学部	地球資源学科	※2	60			2	9	56				67		
	環境物質工学科	※1												
	環境応用化学科		55	1	0	10	56	67						
	生命化学科		32		1	3	29	33						
	材料工学科		60			16	59	75						
	情報工学科		50		1	3	60	64						
【注】 ※1：平成20年度 から学生募集停止 ※2：平成26年度 から学生募集停止	機械工学科	※2	77		1	14	79	94						
	電気電子工学科			75		2	9	84	95					
	土木環境工学科			51			4	57	61					
	各学科共通		12											
	小 計		472	1	7	68	480				556			
	合 計		〈5〉 (26)955	4,156	1,030	1,018	1,065	1,020	129	130	4,392			

※()内の数は3年次編入学定員を表し、外数である。 ※〈 〉内の数は2年次編入学定員を表し、外数である。

〈大学院〉

平成28年5月1日現在

研究科	専攻	入学定員	収容定員	現 員			計	
				博士前期課程 1年次	2年次			
国際資源学 研究科	資源地球科学専攻	17	17	10			10	
	資源開発環境学専攻	23	23	16			16	
	小 計	40	40	26			26	
	専攻	入学定員	収容定員	博士後期課程			計	
	資源学専攻	10	10	5	2年次	3年次	5	
計		50	50				31	
研究科	専攻	入学定員	収容定員	現 員			計	
				専門職学位課程 1年次	2年次			
教育学研究科	教職実践専攻	20	20	22			22	
	専攻	入学定員	収容定員	現 員			計	
				修士課程				
	心理教育実践専攻	6	6	7	2年次		7	
	学校教育専攻	※1	13			11	11	
	教科教育専攻		31			20	20	
注】 ※1：平成28年度 から学生募集停止	小 計	6	50	7	31		38	
計		26	70	29	31		60	
研究科	専攻	入学定員	収容定員	現 員			計	
				修士課程 1年次	2年次			
医学系研究科	医科学専攻	5	10	2	1		3	
	専攻	入学定員	収容定員	博士前期課程			計	
	保健学専攻	12	24	12	17		29	
	専攻	入学定員	収容定員	博士後期課程			計	
	保健学専攻	3	9	4	2年次	3年次	6	
	専攻	入学定員	収容定員	博 士 課 程			計	
	医学専攻	30	120	28	20年次	3年次	41	76
医学研究科 注】※1：平成19年度 から学生募集停止	社会医学系専攻	※1						
内科系専攻								
外科系専攻								
計		50	163				210	
研究科	専攻	入学定員	収容定員	現 員			計	
				博士前期課程 1年次	2年次			
理工学研究科	生命科学専攻	15	15	8			8	
	物質科学専攻	42	42	31			31	
	数理・電気電子情報学専攻	45	45	49			49	
	システムデザイン工学専攻	36	36	35			35	
	共同ライフサイクルデザイン工学専攻	12	12	12			12	
	小 計	150	150	135			135	
	専攻	入学定員	収容定員	博士後期課程			計	
	総合理工学専攻	10	10	8	2年次	3年次	8	
計		160	160				143	
研究科	専攻	入学定員	収容定員	現 員			計	
				博士前期課程 1年次	2年次			
工学資源学 研究科	地球資源学専攻	※2	17	3	21		24	
	環境物質工学専攻	※1						
	環境応用化学専攻		20		28		28	
	生命科学専攻		12		15		15	
	材料工学専攻		23		28		28	
	情報工学専攻		16		15		15	
	機械工学専攻		26	1	25		26	
	電気電子工学専攻		30	1	25		26	
	土木環境工学専攻		11		7		7	
	共同ライフサイクルデザイン工学専攻		12	1	11		12	
	小 計		167	6	175		181	
【注】 ※1：平成24年度 から学生募集停止 ※2：平成28年度 から学生募集停止	専攻	入学定員	収容定員	博士後期課程			計	
資源学専攻		8	6	8	9		23	
生命科学専攻		6		0	2		2	
機能物質工学専攻		6		3	0		3	
生産・建設工学専攻		6	1	1	5		7	
電気電子情報システム工学専攻		6	2	1	6		9	
小 計		32	9	13	22		44	
計			199				225	
合 計		286	642				669	

【注】
※1：平成24年度
から学生募集停止
※2：平成28年度
から学生募集停止

入学志願者・入学状況

出身高校所在地別在学状況

〈学部〉

平成28年度

区 分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
国際資源学部	120	336	132	468	86	35	121	3.90
教育文化学部	210	406	621	1027	84	135	219	4.89
医学部	230	505	615	1120	103	130	233	4.87
理工学部	395	1185	281	1466	325	78	403	3.71

※外国人留学生を含まない(但し、国際資源学部の私費外国人留学生は含む)。編入生を含まない。

〈大学院〉

平成28年度

区 分	入学定員	志願者数			入学者数			志願倍率
		男	女	計	男	女	計	
国際資源学研究科(博士前期課程)	40	28	4	32	23	3	26	0.80
国際資源学研究科(博士後期課程)	10	3	2	5	3	2	5	0.50
教育学研究科(専門職学位課程)	20	14	8	22	14	8	22	1.10
教育学研究科(修士課程)	6	4	11	15	2	5	7	2.50
(修士課程) 医科学専攻	5	0	2	2	0	2	2	0.40
医学系研究科(博士前期課程) 保健学専攻	12	8	11	19	6	6	12	1.58
(博士後期課程) 保健学専攻	3	3	2	5	1	3	4	1.67
(博士課程) 医学専攻	30	21	7	28	21	7	28	0.93
理工学研究科(博士前期課程)	150	141	14	155	124	11	135	1.03
理工学研究科(博士後期課程)	10	7	2	9	7	1	8	0.90

※国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を除く(但し、国際資源学研究科において、国費外国人留学生、外国人留学生特別選抜を含む)。

〈学生総数(学部学生)〉 平成28年5月1日現在

	人数	%
北海道	124	2.9
東北	2,632	(62.3%)
青森	254	6.0
岩手	333	7.9
秋田	1,632	38.7
宮城	178	4.2
山形	158	3.7
福島	77	1.8
関東	758	18.0
中部	583	13.8
近畿	62	1.5
中国	20	0.5
四国	13	0.3
九州	30	0.7
学生総数	4,222	

※学生総数は、国内の高校出身者の合計である。

〈医学部〉

平成28年5月1日現在

	人数	%
北海道	41	3.5
東北	637	(54.2%)
青森	37	3.2
岩手	83	7.1
秋田	419	35.6
宮城	47	4.0
山形	38	3.2
福島	13	1.1
関東	349	29.7
中部	112	9.5
近畿	18	1.5
中国	4	0.3
四国	4	0.3
九州	12	1.0
計	1,177	

〈国際資源学部〉

平成28年5月1日現在

	人数	%
北海道	17	4.9
東北	158	(45.7%)
青森	17	4.9
岩手	28	8.1
秋田	75	21.7
宮城	15	4.3
山形	12	3.5
福島	11	3.2
関東	75	21.7
中部	65	18.8
近畿	15	4.3
中国	8	2.3
四国	2	0.6
九州	6	1.7
計	346	

〈理工学部〉

平成28年5月1日現在

	人数	%
北海道	40	3.3
東北	695	(57.4%)
青森	113	9.3
岩手	114	9.4
秋田	344	28.4
宮城	54	4.5
山形	38	3.1
福島	32	2.7
関東	199	16.5
中部	246	20.3
近畿	18	1.5
中国	4	0.3
四国	4	0.3
九州	5	0.4
計	1,211	

〈教育文化学部〉

平成28年5月1日現在

	人数	%
北海道	18	1.9
東北	837	(86.2%)
青森	43	4.4
岩手	50	5.2
秋田	639	65.8
宮城	37	3.8
山形	56	5.8
福島	12	1.2
関東	62	6.4
中部	46	4.7
近畿	2	0.2
中国	2	0.2
四国	1	0.1
九州	3	0.3
計	971	

〈工学資源学部〉

平成28年5月1日現在

	人数	%
北海道	8	1.6
東北	305	(58.9%)
青森	44	8.5
岩手	58	11.2
秋田	155	30.0
宮城	25	4.8
山形	14	2.7
福島	9	1.7
関東	73	14.1
中部	114	22.1
近畿	9	1.7
中国	2	0.4
四国	2	0.4
九州	4	0.8
計	517	

卒業者・修了者数

〈学部・大学院・専攻科〉

学 部			大学院			専攻科	
区 分	27年度	累計	区 分	27年度	累計	区 分	累計
教育文化学部	302	4,455	教育学研究科	31	856	教育専攻科	78
教育学部		14,519				特殊教育特別専攻科	212
医学部	237	5,083	医学系研究科 (修士課程)	3	60		
			医学系研究科 (博士前期課程)	11	69		
			医学系研究科 (博士後期課程)	3	17		
			医学系研究科 (博士課程)	23	125		
			医学研究科		791		
工学資源学部	480	6,960	工学資源学研究科 (博士前期課程)	162	1,849	鉱山学専攻科	58
			工学資源学研究科 (博士後期課程)	8	115		
鉱山学部		14,522	鉱山学研究科 (修士課程)		1,270		
			鉱山学研究科 (博士前期課程)		1,012		
			鉱山学研究科 (博士後期課程)		123		
計	1,019	45,539	計	241	6,287	計	348

【注】※鉱山学専攻科…昭和40年3月廃止 ※教育専攻科…平成元年3月廃止 ※鉱山学研究科(修士課程)…平成9年3月廃止
 ※教育学部…平成10年4月教育文化学部へ改組・改称 ※鉱山学部…平成10年4月工学資源学部へ改組・改称
 ※鉱山学研究科…平成14年4月工学資源学研究科へ改組・改称 ※特殊教育特別専攻科…平成20年3月廃止
 ※医学研究科…平成19年4月医学系研究科へ改組・改称

〈医療技術短期大学部〉

区 分	看護学科	理学療法学科	作業療法学科
累 計	1,015	246	254

【注】※医療技術短期大学部…平成19年3月廃止

平成28年5月1日現在

学位授与数

区 分		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	累計
教育学研究科	修士(教育学)	24	29	34	24	31	856
医学系研究科	修士(医科学)	4	4	0	0	3	23
	修士(看護学)	5	5	6	6	4	51
	修士(リハビリテーション科学)	7	5	7	8	7	55
	博士(保健学)(課程)	3	4	3	4	3	17
	博士(医学)(課程)	19	23	24	25	23	127
	博士(医学)(論文)	2	1	4	3	4	27
	小 計	40	42	44	46	44	300
医学研究科	博士(医学)(課程)	6	4	3			806
	博士(医学)(論文)	0	0	0			574
	小 計	6	4	3			1,380
工学資源学研究科	修士(工学)	168	159	134	101	145	1,784
	修士(資源学)	0	4	3	6	6	33
	修士(理学)			8	13	11	32
	博士(工学)(課程)	11	10	10	8	7	111
	博士(資源学)(課程)	1	0	0	1	0	3
	博士(理学)(課程)					1	1
	博士(工学)(論文)	0	0	2	0	1	11
	博士(資源学)(論文)	0	0	0	0	0	1
	博士(理学)(論文)					0	0
	小 計	180	173	157	129	171	1,976
鉱山学研究科	修士(工学)						2,252
	修士(資源学)						30
	博士(工学)(課程)						117
	博士(資源学)(課程)						6
	博士(工学)(論文)						31
	小 計						2,436
合 計		250	248	238	199	246	6,948

卒業生等就職状況

平成27年度(平成28年5月1日現在、中途卒を含む)

区分		卒業者数	進学者数	就職者数		産 業 別 就 職 者 数																									その他(産業別)	その他	未就職者				
				県内	県外	農林水産業	鉱業	建設業	製造業	電気ガス等	情報通信業	運輸郵便業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	学術研究・専門技術サービス業	宿泊・飲食業	医療・福祉	学 校 教 育										教育・学習支援業	複合サービス業				サービス業	公務員		
																			教 員						教員以外	国家	地方	公務員の計									
																			幼稚園	小学校	中学校	高等学校	高等専門学校	特別支援学校											その他(教員)	教員の計	
学部	教育学部	302	13	270	—	—	3	6	—	14	12	16	27	—	1	4	8	3	43	30	8	—	20	—	104	3	6	3	13	9	41	50	—	13	6		
	医学部	237	8	226	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	225	—	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—		
	工学部	479	165	290	2	6	37	83	11	31	14	3	6	—	6	1	2	—	—	—	2	—	—	2	1	3	8	7	11	55	66	1(自営)	23	1			
	小計	1018	186	786	2	6	40	89	11	45	26	19	33	—	7	5	235	3	43	31	10	—	20	—	107	4	9	11	20	20	96	116	1	39	7		
大学院	教育学研究科	31	—	26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	7	6	5	—	2	1	21	—	—	—	—	2	2	—	3	2			
	医学系研究科	40	—	40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	33	—	1	—	—	1	—	3	5	1	—	—	—	—	—	—	—	—			
	工学資源学研究所	170	10	149	—	3	14	86	10	16	6	1	—	—	4	—	1	—	—	—	1	—	—	1	—	—	5	2	—	—	—	—	—	11	—		
	小計	241	10	215	—	3	14	86	10	16	6	1	—	—	5	—	37	—	8	6	5	2	2	4	27	1	—	5	2	—	2	2	—	14	2		
合計		1259	196	1001	2	9	54	175	21	61	32	20	33	0	12	5	272	3	51	37	15	2	22	4	134	5	9	16	22	20	98	118	1	53	9		
				369																																632	

平成27年度学生表彰等受賞者

学生表彰被表彰者一覧<学術研究活動>

賞	氏名	所属	業績内容
優秀賞(個人)	加藤 光	工学資源学研究科 博士前期課程 情報工学専攻2年	・平成27年3月5,6日:International Conference on Soft Computing and Software Engineering(SCSE 2015)(ソフトコンピューティングとソフトウェア工学の国際会議)において,Student Travel Awardを受賞した。 ・前記を含め,国際研究集会発表2件,国内研究集会発表2件,学術論文掲載3件の研究成果を発表している。
〃	北村 優弥	工学資源学研究科 博士後期課程 機能物質工学専攻2年	・平成27年11月6日:第35回超音波エレクトロニクスの基礎と応用に関するシンポジウムにおいて発表した論文が,超音波シンポジウム奨励賞を受賞した。 ・平成27年7月28日:2nd Asia-Oceania Sonochemical Society Conference(第2回アジアオセアニア音響科学社会会議)において,2nd RUNNER-UP POSTER AWARDを受賞した。
〃	齊藤 亜由子	工学資源学研究科 博士後期課程 生産・建設工学専攻3年	・平成27年9月25日:The7th Asia-Pacific Congress on Sports Technology(APCST2015)(スポーツ技術に関する第7回アジア太平洋地域会議)において,YOUNG INVESTIGATORS AWARD(最優秀若手研究者賞)を受賞した。 ・平成27年6月25日:日本素材物性学会において,山崎賞(優秀論文賞)を受賞した。 ・平成27年11月5日:精密工学会学生編集委員として執筆した記事に対して,Best Article Awardを受賞した。
奨励賞(個人)	治田 哲	工学資源学研究科 博士前期課程 地球資源学専攻1年	・平成27年6月11日:石油技術協会春期講演会において,石油技術協会優秀発表賞を受賞した。
〃	白井 光	工学資源学研究科 博士後期課程 電気電子情報システム工学専攻2年	・平成27年9月2~5日:The3rd IIAE International Conference on Intelligent Systems and Image Processing 2015(ICISIP2015)(第3回IIAE国際会議知能システム及び画像処理)において,Best Student Paper Awardを受賞した。
〃	丸藤 雅大	医学部医学科 4年	・平成27年3月19日:第88回日本薬理学会年会において,年会優秀発表賞を受賞した。
〃	高尾 浩之	医学部医学科 4年	・平成27年3月19日:第88回日本薬理学会年会において,年会優秀発表賞を受賞した。

学生表彰被表彰者一覧〈課外活動関係〉

賞	氏名・団体名		種目／成績		大 会 名	所属団体
奨 励 賞 (団 体)	医学部女子陸上部		女子団体トラック2位		第72回全日本医歯薬獣医学大学対抗陸上競技選手権大会	医学部女子陸上部
			女子団体総合3位			
〃	医学部氷上競技部		女子団体2位		第35回国公立フリースケーティング競技会	医学部氷上競技部
奨 励 賞 (個 人)	近 藤 大 地	教育文化学部 学校教育課程3年次	男子100kg級	優 勝	2015年度東北学生柔道体重別選手権大会	柔道部
〃	阿 部 菜 那	教育文化学部 学校教育課程3年次	女子57kg級	優 勝	2015年度東北学生柔道体重別選手権大会	柔道部
〃	高 橋 亜 湖	医学部 保健学科3年次	本戦女子	優 勝	第21回東北学生スキー技術選手権大会	基礎スキー部
〃	彌 永 万 緒 里	教育文化学部 学校教育課程2年次	女子新人戦	優 勝	第21回東北学生スキー技術選手権大会	基礎スキー部
〃	川 邊 瑠 璃 子	医学部 医学科6年次	クロスカントリー女子リレー	第 1 位	第57回東日本医科学生総合体育大会 スキー競技	医学部女子競技スキー部
	福 田 葵	医学部 医学科3年次				
	色 川 真 理 奈	医学部 医学科5年次				
〃	亀 山 雛 子	医学部 医学科1年次	女子100m	第 1 位	第58回東日本医科学生総合体育大会 陸上競技	医学部女子陸上部
			女子100m	第 2 位		
〃	広 田 有 紀	医学部 医学科2年次	女子800m	優 勝	第72回全日本医歯薬獣医学大学対抗陸上競技選手権大会	医学部女子陸上部
〃	亀 山 雛 子	医学部 医学科1年次	女子4×400mリレー	第 1 位	第72回全日本医歯薬獣医学大学対抗陸上競技選手権大会	医学部女子陸上部
	広 田 有 紀	医学部 医学科2年次				
	渡 邊 瑞 希	医学部 保健学科2年次				
	小 野 寺 美 晴	医学部 保健学科4年次				

副学長表彰被表彰者一覧〈学術研究関係〉

賞	氏名	所属	業績等	指導・顧問教員
学術研究活動 (個人)	佐々木雄大	教育文化学部 学校教育課程3年	第19回秋田県青少年音楽コンクール管・打楽器部門大学生・一般の部において金賞を受賞した。	石原 慎司
//	若松 庸子	教育学研究科 教科教育選考2年	ALL ROOMsの学生スタッフとして、2014年4月から現在まで勤務。特にスタッフリーダーとして、英語力の模範を示すだけでなく、持ち前のバイタリティで、明るい雰囲気を作ってくれた。昨年度は、既卒学生と教員とプロジェクトを組み、日本アジア 英語学会やHawaii International Conference on Educationにて学会発表をおこない、東北英語教育学会において、論文の掲載もおこなったことから、学術的外部発信への貢献は非常に大きい。また、国際交流室(附属中学校)のコーディネーター兼任として、ALL ROOMsと附属中学校の架け橋となったり、附属特別支援学校高等部の学生を招き入れる架け橋ともなったりした。海外勤務経験もあり、TOEICは900点台であるため、TOEIC、TOEFL受験希望者に具体的な指導を行った。2015年度横手清陵学院高校において依頼された、PTA講演にも参加。2015年度修了。	長谷川 仁志
//	佐々木美祐	教育文化学部 国際言語文化課程4年	ALL ROOMsスタッフとして、2013年4月から現在まで(ただし、留学期間2013年10月から2014年6月までを含む)、広報とイベントの担当として、設立後数年の組織として必要な広報活動や、サービスの質の向上と利用者増加のため、季節のイベントを企画、実行した。その結果、年間延べ1000人を越える安定した利用者の獲得につながったのは事実である。また、学部生スタッフのリーダー格として、皆が気づきにくい細かい点や、組織のマネジメントも行った。さらに、イスラエルのハイファ大学に長期留学した経験を持ち帰って、他のスタッフやユーザーに還元したことは大きな貢献と言える。実際、入れ替わりで、別のスタッフが同大学に長期留学をしているのは、彼女の影響が大きいと思われる。なお、TOEICは865点を獲得している。2015年度横手清陵学院高校において依頼された、PTA講演にも参加。2015年度卒業。	長谷川 仁志
//	柴田 朱里	教育文化学部 国際言語文化課程4年	ALL ROOMsスタッフとして、2013年4月から勤務し、主な担当として、PR/Eventの役割を担った。広報活動やイベント企画、運営を積極的に行い、ALL ROOMsが英語を通じた出会いの場になるような働きかけをした。その結果、年間延べ1000人を越える、安定した利用者の獲得につながったことは確かである。また、自らが「自律した学習者」として、教育推進総合センター主催のTOEIC講座には3年間通して参加して学習方法を学び、自らのスコアアップとともに、スコアをあげたい学習者の支援を行った。自らも、もともとはALL ROOMsに通っていたユーザーの一人であったため、他の学習者の気持ちに寄り添い、ひとりひとりの目標にあった英語学習が提案できたり、複数回の短期留学の体験を還元し、サポートをしたりしてくれた。2015年度横手清陵学院高校において依頼された、PTA講演にも参加。2015年度卒業。	長谷川 仁志
//	佐藤 華奈	教育文化学部 国際言語文化課程3年	ALL ROOMsの学生スタッフとして、2013年4月から現在まで勤務。(途中一年間のオーストラリア・グリフィス大学留学期間を含む)留学前から非常に高い英語力を持ち、帰国後、特筆すべきTOEICのハイスコアを記録した(955点)ため、通常、卒業学年に推薦する副学長表彰を、一年早く推薦いたしました。帰国後の活躍が特に優れており、来年度、スタッフリーダーとなるため、その自覚も芽生え、ALL ROOMsの明るい雰囲気づくりと、日本とオーストラリアをどちらも知るという視点から接し、1,2年生に対しても、非常によい刺激を与えている。留学生とのコミュニケーションも非常にスムーズでALL ROOMsを訪れる留学生の数の増加にも貢献している。さらに、抜群の英語力は、ALL ROOMs並びにユーザーの学生のロールモデルとなっている。また、本年度は、横手清陵学院高校において、依頼されたPTA講演にも参加した。	長谷川 仁志

副学長表彰被表彰者一覧〈課外活動関係〉

氏 名		所 属	業 績 等	指導・顧問教員	
課外活動 (団体)	男子ハンドボール部		第40回東北学生ハンドボール春季リーグ戦 男子1部リーグ第2位	佐 藤 靖	
			第60回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦 男子1部リーグ第2位		
//	柔道部		平成 27 年度東北学生柔道優勝大会 男子団体戦準優勝	三 戸 範 之	
//	基礎スキー部		第 21 回東北学生基礎スキー技術選手権大会 女子総合優勝	高 崎 康 志	
//	医学部女子バスケットボール部		第 58 回東日本医科学生総合体育大会 女子バスケットボール優勝	齊 藤 元	
//	医学部女子バレーボール部		第15回北日本医歯薬看護学生体育大会 女子団体戦優勝	神 林 崇	
//	医学部男子ソフトテニス部		第9回秋季北日本医歯薬学生ソフトテニス大会 男子団体1位	清 水 徹 男	
//	医学部女子ソフトテニス部		第58回東日本医科学生総合体育大会 女子団体戦優勝	清 水 徹 男	
//	医学部剣道部		第58回東日本医科学生総合体育大会 男子団体優勝 第58回東日本医科学生総合体育大会 女子団体2位	羽 淵 友 則	
課外活動 (個人)	石 田 真 吾	国際資源学部国際資源学科2年次	第 41 回東北地区記録会 第3位	水 戸 部 一 孝	
	柳 貴 仁	工学資源学部機械工学科 3年次	2015 年七大戦ｼﾞﾑﾅｼ in SUGOU & 東北学自連ｼｰｽﾞ 東北大学ｼﾞﾑﾅｼ大会 オープンⅢ・Ⅳ 優勝	大 川 浩 一	
	山 田 充 高	理工学部 数理・電気電子情報学科2年次	第 50 回東北学生ハンドボール春季リーグ戦 ベスト7	佐 藤 靖	
	堀 俊 介	教育文化学部学校教育課程1年次	第 50 回東北学生ハンドボール春季リーグ戦 ベスト7		
	横 澤 一 樹	工学資源学部環境応用化学科4年次	第 60 回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦 ベスト7		
	黒 木 拓	工学資源学部機械工学科4年次	第 60 回東北学生ハンドボール秋季リーグ戦 ベスト7		
	鈴木 美咲	教育文化学部学校教育課程4年次	第 50 回東北学生ハンドボール春季リーグ戦 ベスト7		
	菅 原 将 也	教育文化学部学校教育課程3年次	2015 年度東北学生柔道体重別選手権大会 73 kg級準優勝	三 戸 範 之	
	成 田 大 佑	教育文化学部学校教育課程2年次	2015 年度東北学生柔道体重別選手権大会 66 kg級第3位		
	森 田 昂 太	工学資源学部地球資源学科4年次	2015 年度東北学生柔道体重別選手権大会 100 kg超級第3位		
	清 水 紗 英	理工学部生命科学科1年次	第30回北部地区国公立大学選手権水泳競技大会 女子100m自由形第1位	土 岐 仁	
	西 野 敬 祥	医学部 医学科6年次	第 40 回東北地区医科歯科学生スキー大会 男子複合 1位	本 田 耕 平	
	川 邊 瑠 璃 子	医学部 医学科6年次	第 40 回東北地区医科歯科学生スキー大会 女子クロスカントリー個人 1位		
	色 川 真理奈	医学部 医学科5年次	第 40 回東北地区医科歯科学生スキー大会 女子クロスカントリーリレー 1位		
	本 郷 真 伊	医学部 医学科4年次			
	川 邊 瑠 璃 子	医学部 医学科6年次			
	石 野 寛 和	医学部 医学科4年次	第 27 回北日本医科学生陸上競技大会 男子 800m 1位	山 田 祐 一 郎	
	//	小 黒 希 理	医学部 医学科6年次	第 27 回北日本医科学生陸上競技大会 女子 100m 1位 第 58 回東日本医科学生総合体育大会陸上競技 女子 100m 2位	河 谷 正 仁
	//	白 方 冬 美	医学部 医学科6年次	第 58 回東日本医科学生総合体育大会陸上競技 女子 1500m 1位	
	//	中 村 みのり	医学部 医学科3年次	第 27 回北日本医科学生陸上競技大会 女子走幅跳 1位	
	//	小野寺 美 晴	医学部 保健学科4年次	第 27 回北日本医科学生陸上競技大会 女子 4 × 100m リレー 1位大会新	
	//	小 黒 希 理	医学部 医学科6年次		
	//	亀 山 雛 子	医学部 医学科1年次		
	//	津 谷 実 希	医学部 保健学科4年次	河 谷 正 仁	
	//	亀 山 雛 子	医学部 医学科1年次		
	//	広 田 有 紀	医学部 医学科2年次		第 27 回北日本医科学生陸上競技大会 女子 4 × 400m リレー 1位大会新
	//	小 黒 希 理	医学部 医学科6年次		
	//	渡 邊 瑞 希	医学部 保健学科2年次		
	//	亀 山 雛 子	医学部 医学科1年次	河 谷 正 仁	
	//	広 田 有 紀	医学部 医学科2年次		第 58 回東日本医科学生総合体育大会陸上競技 女子 4 × 100m リレー 1位大会新
	//	小 黒 希 理	医学部 医学科6年次		
	//	中 村 みのり	医学部 医学科3年次		
	//	小野寺 美 晴	医学部 保健学科4年次		河 谷 正 仁
//	亀 山 雛 子	医学部 医学科1年次	第 72 回全日本医歯薬獣医学大学対抗陸上競技選手権大会 女子 4 × 100m リレー 3位		
//	中 村 みのり	医学部 医学科3年次			
//	久 慈 菜津美	医学部 保健学科1年次			
//	渡 邊 瑞 希	医学部 保健学科2年次	第 72 回全日本医歯薬獣医学大学対抗陸上競技選手権大会 女子 800m 3位 第 72 回全日本医歯薬獣医学大学対抗陸上競技選手権大会 女子 1500m 3位	西 川 俊 昭	
//	高 橋 凪	医学部 医学科6年次	第 44 回北日本医科歯科学生卓球大会 女子ダブルス優勝 第 58 回東日本医科学生総合体育大会卓球競技 女子ダブルス3位		
//	渡 邊 里 奈	医学部 医学科3年次			
//	山 口 浩 平	医学部 医学科4年次	第 50 回北日本医科学生水泳大会 男子 50m 自由形 1位	尾 野 恭 一	
//	佐々木 優	医学部 保健学科1年次	第 50 回北日本医科学生水泳大会 女子 100m バタフライ 1位		
//	弓 田 冴	医学部 医学科6年次	第 50 回北日本医科学生水泳大会 女子 100m 背泳ぎ 1位		
//	月 井 里 香	医学部 医学科4年次	第 58 回東日本医科学生総合体育大会ソフトテニス競技 女子個人・ペア 優勝 第 49 回全日本医科学生体育大会王座決定戦 女子ソフトテニス部門 個人・ペア 2位	清 水 徹 男	
//	泉 澤 沙弥香	医学部 医学科4年次	第 48 回北日本医科歯科学生剣道大会 女子個人優勝 第 58 回東日本医科学生総合体育大会剣道競技 男子個人優勝	羽 淵 友 則	
//	木 村 早 希	医学部 医学科1年次			
//	近 藤 侃	医学部 医学科3年次	第 51 回東北地区医科学生弓道大会 女子個人優勝	尾 野 恭 一	
//	松 原 倭 子	医学部 保健学科2年次	第 35 回国公立フリースケーティング大会 Aクラス女子3位	河 谷 正 仁	

外国人留学生数

平成28年5月1日現在

国名	学部 国別計	学 部												小 計		大 学 院										小 計		合 計		合 計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
		国際資源学部			教育文化学部			医学部		工学資源学部		理工学部				国際資源学研究科			教育学研究科		医学系研究科		理工学研究科		工学資源学研究科																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
		正規	非正規	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費		私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費	国費	私費	私費

※()内は、女子学生数(内数) ※「国費」とは日本政府(文部科学省)奨学生を示し、大学推薦・大使館推薦・国内採用を含む。
※「非正規」とは、日研究生・教研究生・特別聴講学生／特別研究学生(交換留学生)・科目等履修生・研究生を指す。
※「私費」には、政府派遣留学生(アラブ首長国連邦・マレーシア)を含む。

外国人研究員等

〈外国人研究員数〉

平成27年度受入実績

部局名	国・地域	人数
工学資源学研究科	中 国	3
	インド	1
	ベトナム	1

〈非常勤研究員数〉

平成27年度受入実績

部局名	国・地域	人数
工学資源学研究科	インド	2
	ガーナ	1
	中 国	1
	モンゴル	1
ベンチャー・ビジネス・ ラボラトリー	中 国	4
	インド	3
	モンゴル	1

〈外国人客員研究員数〉

平成27年度受入実績

部局名	国・地域	人数
国際資源学部	インドネシア	4
	トルコ	1
医学系研究科	ペラルーシ	2
工学資源学研究科	ニュージーランド	1

1

平成28年5月1日現在

部局名	国・地域名	大学・学部等名	協定締結年月日
国際資源学部	アジア	インドネシア ハサヌティン大学工学部	平成26年4月23日
医学系研究科	アジア	中国 中国衛生部北京医院	平成7年11月14日
		シンガポール シンガポール国立大学看護学部	平成28年3月7日
	ヨーロッパ (NIS諸国を含む)	フランス リール大学医学部	平成23年4月13日
医学部 附属病院	アジア	中国 蘭州大学附属第一病院	平成26年6月12日
工学資源学研究所・ 工学資源学部	アジア	台湾 明新科技大学工学院	平成22年4月12日
		中国 清華大学精密機器与機械学系	平成19年3月1日
		中国 清華大学化学系	平成20年1月17日
		中国 同済大学材料科学与工程学院	平成22年5月24日
		中国 同済大学上海市金属功能材料開発応用重点实验室	平成22年5月24日
	アフリカ	ザンビア ザンビア大学鉱山学部	平成15年1月20日
		ザンビア ザンビア大学工学部	平成15年3月12日
	チュニジア	スファックス大学工学部	平成15年12月18日
	オセアニア	ニュージーランド オーkland工科大学デザイン創造学部	平成24年11月27日 (覚書交換)
	北米	アメリカ モンタナ鉱物理工科大学	昭和57年6月24日
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	アジア	中国 同済大学上海市金属功能材料開発応用重点实验室	平成23年9月2日



公開講座

〈平成27年度実施〉

講座名	内 容	開催時期	対象者	参加者数	担当の学部
声楽入門講座 歌は人生を楽しむ ～声の出し方、 歌い方のヒント～ (全3回) ※入門講座として実施	市民の皆さんを対象に、声楽入門講座を開催します。 『歌うことが好き！』という方ならどなたでもご参加いただけます。 『経験がない。上手に歌えない。』という方も是非この機会に、歌うことの楽しさを体感してみませんか？ 声楽を専門とする秋田大学教育文化学部の爲我井壽一准教授が、“のびのびと声を出し、歌うことを楽しむヒント”を教えます。 また、今回は、秋田市以外の2会場でも開催します。 お近くの会場で受講いただけますので、たくさんのご参加をお待ちしております。	平成27年 6月13日(土) ～7月4日(土)	一般市民	191	教育文化学部
資源リサイクルへの 挑戦と玉川温泉の 不思議を探る ～フィールドワーク:ラボ 見学と玉川巡検～ (全3回)	本講座は、鉱物資源をキーワードに、世界の資源情勢から最新の資源生産・分離技術を学び、リサイクルの必要性を考えます。 一方、資源環境学の立場から秋田県の玉川温泉に着目し、玉川温泉の成因や地球化学的な特徴、その不思議な世界を座学、巡検を交えて学びます。	平成27年 6月27日(土) ～28日(日)	一般市民	81	国際資源学部
化学の力で限りある 資源を有効活用！ (全5回)	石油、石炭、金属鉱物などの天然資源は現代生活に欠かせないものであり、これら限りある資源の有効活用や代替品の開発が社会的に求められています。 本講座では化学技術を活かした天然資源の有効活用について秋田大学で実施されている研究を実例として講義します。 化学を専門としていない人にも理解できるように、社会における化学技術の重要性と意義を解説します。	平成27年 8月28日(金) ～9月25日(金)	一般市民	100	理工学部
北イングランドの文化Ⅱ —英国ヨークシャーを めぐって— (全5回)	本講座では、昨年度に引き続き「北イングランド」と呼ばれる地域の文化的特色を考えていきます。 今回は英国映画を案内役として、ヨークシャーのいろいろな町や地域をめぐります。北イングランドの中心地域であるヨークシャーの産業、文化、自然の「魅力」と「現実」を確認しながら、英国の「地方」に生きる「普通」の人々の姿を見ていきたいと思います。	平成27年 11月4日(水) ～12月2日(水)	一般市民	120	教育文化学部
サイコロジカル・カフェ (全7回)	秋田大学教育文化学部の心理学系教員7名が、オムニバス形式で最新の心理学の知見、研究、実験や技法について実演を交えて紹介します。こころの不思議や健康について、カフェでおしゃべりする感覚で気軽に楽しく体験学習をしてみましょう。	平成27年 11月17日(火) ～12月15日(火)	一般市民	99	教育文化学部

平成28年度開催予定の公開講座は で検索できます。

国内機関との連携・協力協定

〈大学間協定〉

平成28年5月1日現在

	協定締結日	締結先	協定の形態等	備考
自治体	平成18年 9月25日	秋田県	連携協定	
	平成20年 7月11日	秋田市	//	
	平成20年10月24日	大館市	//	
	平成20年11月 5日	小坂町	//	
	平成20年11月17日	能代市	//	
	平成21年 2月 7日	横手市	//	
	平成21年10月 6日	北秋田市	//	
	平成22年 5月26日	大仙市	//	
	平成22年12月10日	八峰町	//	
	平成23年 2月17日	男鹿市	//	
	平成23年 5月13日	美郷町	//	
	平成24年 2月17日	湯上市	//	
	平成24年11月20日	湯沢市	//	
	平成26年 9月26日	東成瀬村	//	
	平成26年11月26日	仙北市	//	
大 学	平成10年 3月23日	放送大学	単位互換に関する協定	
	平成14年 3月27日	秋田県内3大学	//	
	平成14年 5月22日	北東北国立3大学	//	
	平成15年10月 9日	秋田県内高等教育機関	//	平成22年4月1日からは 12高等教育機関へ拡大
	平成19年12月25日	群馬大学	グローバルCOEプログラム 「生態調節シグナルの統合的研究」	
	平成20年 7月22日	秋田県立大学	連携協力協定	
	平成21年 3月24日	秋田県立大学、国際教養大学	//	平成26年4月1日からは秋田 公立美術大学を加えて秋田県 内4大学へ拡大
	平成24年10月 3日	東北公益文科大学	//	
その他 企業等	平成25年 1月31日	東京大学生産技術研究所	//	
	平成15年12月24日	秋田県立脳血管研究センター	連携大学院協定	
	平成17年 3月17日	秋田大学生生活協同組合	福利厚生事業に関する協定	
	平成18年 7月19日	(株)秋田銀行	連携協力協定	
	平成18年10月24日	(株)北都銀行	//	
	平成18年12月 6日	商工組合中央金庫秋田支店	産学連携協力推進協定	
	平成19年 3月 6日	(株)日本政策金融公庫 秋田支店	//	中小企業金融公庫から 平成20年10月1日に改称
	平成19年 7月24日	DOWAホールディングス(株)	包括的連携協定	
	平成20年 3月21日	(国研)宇宙航空研究開発機構	宇宙教育活動にする協力協定	
	平成20年 9月11日	(株)わらび座	連携協力協定	
	平成23年 4月13日	(独)石油天然ガス・金属鉱物 資源機構	資源分野における包括協定	
	平成23年11月29日	美郷町商工会	産学連携に関する覚書	
	平成24年 1月20日	大仙市商工会	//	
	平成25年11月19日	(独)国際協力機構(JICA)	資源分野の戦略的連携合意書	
	平成26年 9月24日	(株)北都銀行	新戦略連携協定	

〈部局間協定〉

平成28年5月1日現在

部局名	協定締結日	締結先	協定の形態等
国際資源学部	平成26年11月 1日	高知大学海洋コア総合研究センター	学部間協定
教育文化 学部	平成19年 3月23日	秋田県秋田北高等学校	連携教育協定
	平成21年 3月26日	秋田県教育委員会	秋田県総合教育センター研修員の授業科目の履修に関する協定
	平成24年 8月 1日	秋田県教育委員会、秋田市教育委員会	連携協定
理工学 研究科	平成17年12月13日	秋田工業高等専門学校	学部間協定
	平成18年10月 1日	国際資源大学校	//
	平成18年11月21日	秋田県産業技術総合研究センター	//
	平成25年12月 5日	秋田県、能代市	連携協定
	平成28年 1月 4日	信州大学工学部	//

役員数

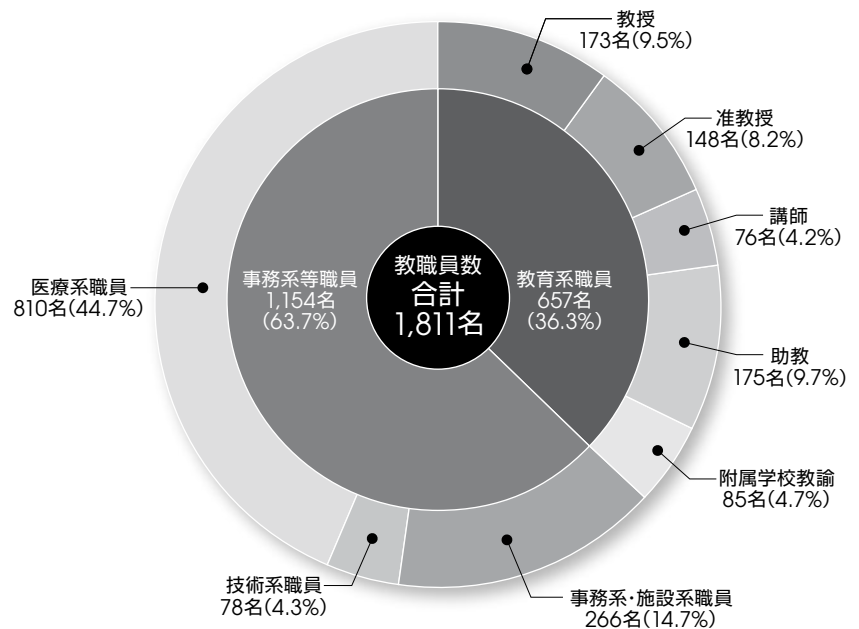
平成28年5月1日現在

区 分	学 長	理 事	監 事	計
学 長	1			1
理 事		5 (1)		5 (1)
監 事			2 (1)	2 (1)
計	1	5 (1)	2 (1)	8 (2)

※()内の数は非常勤で内数

教職員数

平成28年5月1日現在



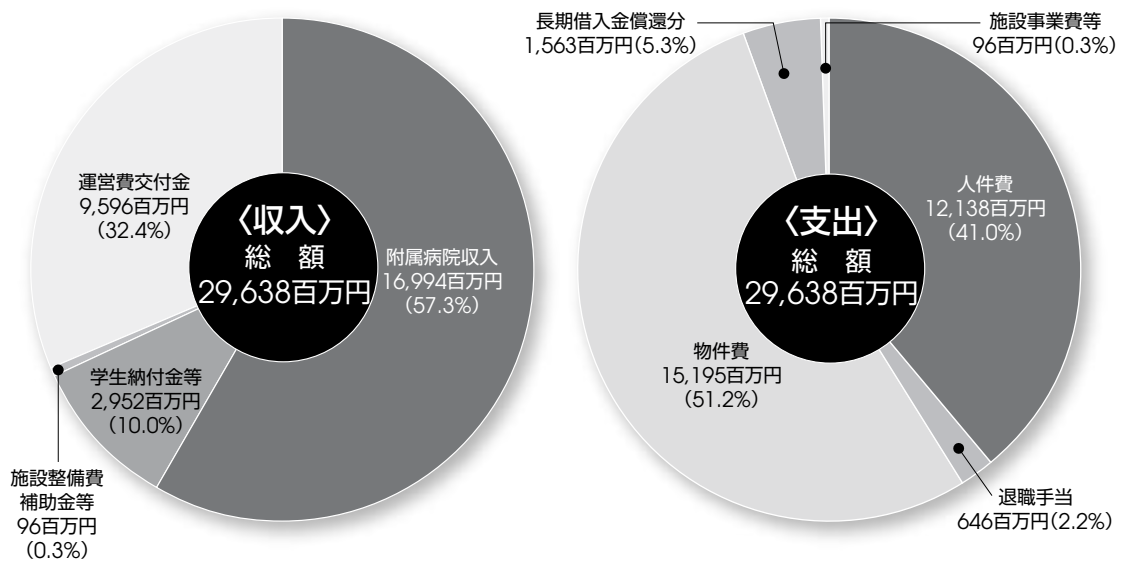
※教育系職員には特任教員を含め、寄附講座等教員を除く。

職別・男女別

平成28年5月1日現在

区 分	教 授		准教授		講 師		助 教		附属学校 教諭		事務系・ 施設系教員		技術系 職員		医療系 職員	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
男	156	90.2	130	87.8	61	80.3	120	68.6	41	48.2	162	60.9	61	78.2	146	18.0
女	17	9.8	18	12.2	15	19.7	55	31.4	44	51.8	104	39.1	17	21.8	664	82.0
合計	173		148		76		175		85		266		78		810	

平成28年度予算



※金額は平成28年度予算額であり、上記収入及び支出には、産学連携等研究費及び寄附金に係る経費は含まない。

外部資金 受入状況

単位:千円

名 称	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
民間等との共同研究	59	77,934	59	58,659	56	75,131	62	59,464	71	64,480	78	77,127	72	73,014	77	83,786
受託研究	73	276,786	86	312,251	84	371,986	110	273,757	131	344,289	123	279,478	92	382,050	113	530,846
奨学寄附金	830	485,359	794	515,847	801	643,222	769	816,153	705	423,299	738	457,548	702	433,377	739	422,972
寄附講座・部門	2	38,300	3	75,800	5	216,800	6	222,600	6	226,800	6	204,000	4	162,000	4	156,000
合 計	964	878,379	942	962,557	946	1,307,139	947	1,371,974	913	1,058,868	945	1,018,153	870	1,050,441	933	1,193,604

※受託研究には治験薬試験・病理組織検査・受託試験を含まない。奨学寄附金には教育研究支援基金・みらい創造基金を含まない。

平成28年度科学研究費 助成事業採択状況

単位:千円 平成28年4月内定時

研究種目	採択件数	交付金額		
		直接経費	間接経費	合計
新学術領域研究(研究領域提案型)	2	32,800	9,840	42,640
基盤研究(A)	3	21,400	6,420	27,820
基盤研究(B)	14	64,400	19,320	83,720
基盤研究(C)	155	169,500	50,850	220,350
挑戦的萌芽研究	16	15,800	4,740	20,540
若手研究(A)	2	7,900	2,370	10,270
若手研究(B)	37	39,000	11,700	50,700
研究活動スタート支援	3	3,200	960	4,160
奨励研究	10	4,610	—	4,610
合 計	242	358,610	106,200	464,810

※金額は平成27年度交付予算額

土地・建物

平成28年5月1日現在

区 分			建物 延床面積(㎡)	土地(㎡)
手形地区	国際資源学部	学 部	4,590	200,277
		附属鉱業博物館	3,864	
	教育文化学部	学 部	21,527	
		附属教育実践研究支援センター	560	
	理工学部	学 部	30,417	
		附属理工学研究センター	2,975	
		附属ものづくり創造工学センター	684	
	中央図書館		4,604	
	情報統括センター		1,003	
	地方創生センター 1号館(百周年記念館含む)		2,151	
	地方創生センター 2号館		2,878	
	放射性同位元素センター		338	
	保健管理センター		561	
	大学会館(クレール)		3,322	
	本部管理棟他		9,800	
	体育関係施設		3,827	
	課外活動施設		1,396	
	小 計		94,497	
本道地区	医学部	学 部	34,180	168,219
		附属病院	62,234	
		附属病院シミュレーション教育センター	1,347	
	医学図書館		1,717	
	バイオサイエンス教育・研究サポートセンター		7,359	
	環境安全センター		366	
	本道会館(メディココ)		1,355	
	体育関係施設		1,079	
	課外活動施設		396	
	本道寮(女子)		1,317	
	職員宿舎(糠塚)・看護師宿舎		6,878	
	保育所		334	
	小 計		118,562	
	保戸野地区	教育文化学部附属幼稚園		
教育文化学部附属小学校		7,680		
教育文化学部附属中学校		7,628		
教育文化学部附属特別支援学校		3,338		
小 計		19,858		
その他	手形寮(女子)、西谷地寮(男子) 他		6,462	27,847
	職員宿舎(休下町、城下町 他)		6,074	
	上記以外		710	
	小 計		13,246	
合 計			246,163	465,150

各連絡先・所在地一覧

Telephone Number and Address

〈手形地区〉

名 称	電話番号	所在地
総務企画課総務担当（総合案内）	018-889-2207	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
評価センター	018-889-2937	
附属図書館 中央図書館	018-889-2273	
保健管理センター	018-889-2286	
産学連携推進機構	018-889-2712	
情報統括センター	018-889-2499	
地方創生センター	018-889-3007	
地方創生センター 1号館	018-889-2680	
地方創生センター 2号館	018-889-3040	
国際資源学教育研究センター	018-889-2810	
放射性同位元素センター	018-889-3006	
国際交流センター	018-889-2856	
教育推進総合センター	018-889-3191	
教員免許状更新講習推進センター	018-889-3205	
学生支援総合センター	018-889-2265	
男女共同参画推進室	018-889-2260	〒010-8502 秋田市手形字大沢28-2
インフォメーションセンター	018-889-2931	
国際資源学部 総務担当	018-889-2214	
国際資源学部 附属鉱業博物館	018-889-2461	
教育文化学部 総務担当	018-889-2509	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1
教育文化学部 附属教育実践研究支援センター	018-889-2700	
理工学部 総務担当	018-889-2305	
理工学部 附属理工学研究センター	018-889-2460	
理工学部 附属ものづくり創造工学センター	018-889-2806	
理工学部 附属地域防災力研究センター	018-889-2305	



手形地区

〈本道地区〉

名 称	電話番号	所在地
医学部（総合案内）	018-833-1166	〒010-8543 秋田市本道1-1-1
医学部 附属病院（総合案内）	018-834-1111	
医学部 附属病院 シミュレーション教育センター	018-884-6427	
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター 分子医学部門	018-884-6191	
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター 動物実験部門	018-884-6193	
バイオサイエンス教育・研究サポートセンター 放射性同位元素部門	018-884-6196	
生体情報研究センター	018-884-6467	
環境安全センター	018-884-6192	
附属図書館 医学図書館	018-884-6052	



本道地区

〈保戸野地区〉

名 称	電話番号	所在地
教育文化学部 附属幼稚園	018-862-2343	〒010-0904 秋田市保戸野原の町14-32
教育文化学部 附属小学校	018-862-2593	〒010-0904 秋田市保戸野原の町13-1
教育文化学部 附属中学校	018-862-3350	〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75
教育文化学部 附属特別支援学校	018-862-8583	



保戸野地区

〈その他施設等〉

名 称	電話番号	所在地
西谷地寮(男子)	018-833-2856	〒010-0851 秋田市手形西谷地5-1
手形寮(女子)	—	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
本道寮(女子)	—	〒010-0825 秋田市柳田字糠塚100-3
国際交流会館	—	〒010-0862 秋田市手形田中5-50
留学生会館	—	〒010-0041 秋田市広面字高田4
横手分校	0182-38-8304	〒013-0036 横手市駅前町1-21
北秋田分校	0186-62-1111	〒018-3392 北秋田市花園町19-1
男鹿なまはげ分校	0185-24-9126	〒010-0595 男鹿市船川港船川字泉台66-1
東京サテライト	03-5440-9104	〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6 東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター 606号室
放送大学秋田学習センター	018-831-1997	〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

手形地区施設配置図

Tegata Campus Map



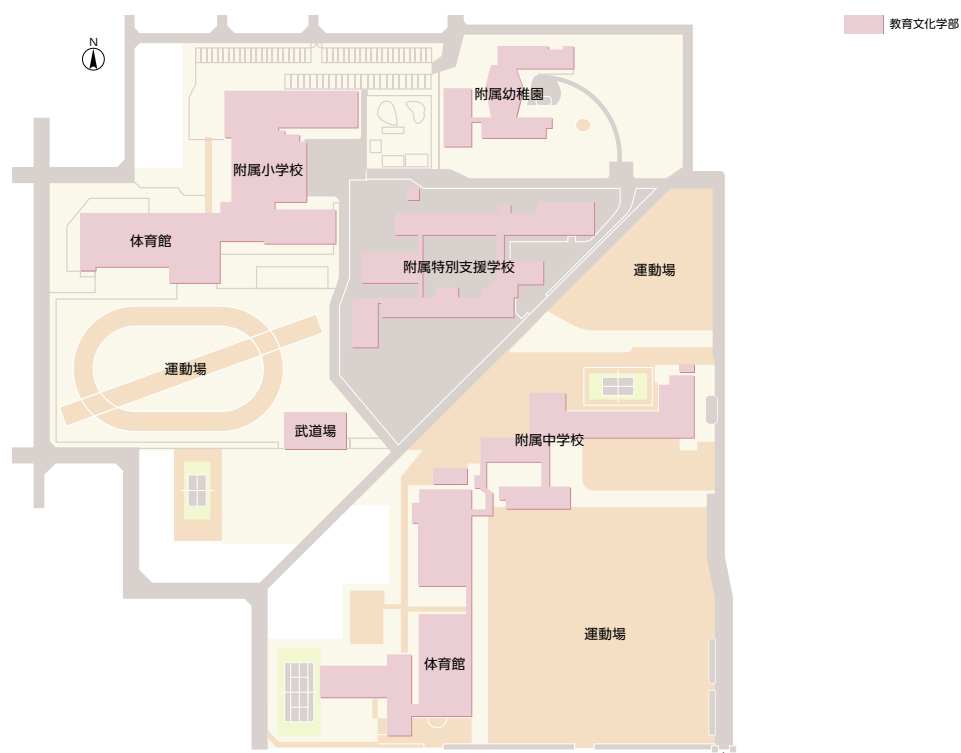
本道地区施設配置図

Hondo Campus Map



保戸野地区施設配置図

Hodono Campus Map



アクセス

Access



〈秋田まで〉

平成28年4月現在

東京から	羽田空港—秋田空港(約1時間5分)
	秋田新幹線「こまち」 東京駅—秋田駅(約4時間)
名古屋から	中部国際空港—秋田空港(約1時間20分)
大阪から	大阪国際(伊丹)空港—秋田空港(約1時間30分)
札幌から	新千歳空港—秋田空港(約1時間5分)
秋田空港～ 秋田駅間 リムジンバス	秋田空港—秋田駅西口(約35分)
	秋田空港—秋田駅東口(約30分) ※1日1便のみ

〈秋田駅から秋田大学まで〉

平成28年4月現在

行き先	バス路線(秋田中央交通)	秋田駅前 バスのりば	下車バス停(所要時間)
手形 地区	手形山大学病院線	西口⑫番	秋田大学前(約6分)
	●秋田駅東口より徒歩約15分		
本道 地区	太 平 線	西口⑪番	大学病院前(約15分)
	赤 沼 線		
	松崎団地線		
	手形山大学病院線	西口⑫番	
	駅 東 線	東口①番	
	赤 沼 線	東口②番	
保戸野 地区	神田旭野線	西口⑧番	原の町(約10分)
	神田土崎線		
	添 川 線		



学 年 暦

●学年

前 期…… 4月1日～9月30日

後 期……10月1日～3月31日

●式典

入学式……4月 6日

卒業式……3月22日

●休業(平成28年～平成29年)

夏季休業…… 8月13日～ 9月30日

冬季休業……12月26日～ 1月 8日

春季休業…… 2月22日～ 4月 4日

ロゴマーク



秋田大学のロゴマークには、次の四つの意味が表現として込められています。

- 1 本学名称の英語表記“Akita University”の頭文字の小文字“a”を表現している。
 - 2 本学が秋田県に存在し、また秋田県に根ざした大学となることを目指していることから、秋田県の「海岸線」のイメージを表現している。
 - 3 本学が四つの学部から構成される大学であることのイメージを表現している。
 - 4 本学が「世界」と「地域」の両面へ貢献する大学であることのイメージを表現している。
-

秋田大学 概要 平成28年度

[編集発行]

秋田大学 広報課

秋田市手形学園町1番1号 〒010-8502
TEL018-889-3019 FAX018-889-3242
E-mail kouhou@jimu.akita-u.ac.jp
<http://www.akita-u.ac.jp>